

現今各府縣共
大小區ノ制之
レナレ

▲原本朱字

現今各府縣共
大小區ノ制之
レナレ

十二年五月十
六日滋賀縣甲

一方名

藥品分量

製法

用法服量

功能

但賣藥數種アルハ上ノ例ニ從テ速書スヘシ（此但書全文）
右者何年月御検査濟鑑札御下渡營業仕候處今般何某（職受人）ハ示談
ノ上讓渡申候依テ所持ノ鑑札返納仕候間御書替被下度此段奉願候
也

營業人 氏 名

何府縣何大區何小區何區何郡何町何番地

華士族或ハ平民

賣藥鑑札主 氏 名印

滋賀縣何大區何小區何區何郡何町何番地

年號月日

華士族或ハ平民

右讓受人 氏 名印

▲鑒札主
所任地ノ區戶長或ハ醫務取締

氏 名印

▲讓受人
所任地ノ醫務取締

氏 名印

滋賀縣令 苗字 名 殿

○賣藥行商鑑札願書式 用紙半紙ニテ 二通ツ、

賣藥行商鑑札願

一方名 一同 一同 一同

滋賀縣何大區何小區何區何郡何町何番地

華士族或ハ平民

右營業人 氏 名

第三十二號布
達ヲ以テ區制
ヲ廢レ同日同
甲第三十三號
布達ヲ以テ區
長醫務取締ヲ
廢ス
▲原本朱字

十一年九月十
四日滋賀縣甲
第三十二號布
達ヲ以テ二通
ヲ一通ト改ム
○十二年五月
十六日滋賀縣
甲第三十二號
布達ヲ以テ區
制ヲ廢ス

現今各府縣共
大小區ノ制之
レナシ

何府縣何大區何小區何郡何區何町何番地
華士族或ハ平民

▲原本朱字

賣子 氏 名

現今各府縣共
大小區ノ制之
レナシ

何府縣何大區何小區何郡何區何町何番地
華士族或ハ平民

右營業人 氏 名

十二年五月十
六日滋賀縣甲
第三十二號布
達ヲ以テ區制
ヲ廢ス

滋賀縣何大區何小區何郡何區何町何番地
華士族或ハ平民

右請賣人 氏 名

▲原本朱字

▲賣子ノ住所族籍氏名ハ前ニ同シ

右ノ賣藥今般自分行商或ハ仕度候間行商鑑札御下渡被下度此段奉
願候也

年號月日

願人

氏

名印

醫務取締

氏

名印

滋賀縣令苗字名殿

但行商鑑札賣子交換及遺失毀失等ニテ書替ヲ願フルハ前敷項ノ
書式ニ準スヘシ尤用紙ハ半紙ヲ用非正副二通ヲ出スヘシ

（十一年三月二十一日滋賀縣甲第十九號布達ヲ以テ營業請賣人相繼
改名等ニ付鑑札書換願書式及ヒ第十條ヲ追加シ十一月九日十四日
同甲第五拾貳號布達ヲ以テ營業請賣人書式及ヒ後ニ出）

○明治十年七月二十五日滋賀縣丙第百拾四號達區長醫務

本年三月乙第二十四號ヲ以テ及布達候賣藥營業願手續書中第二條
第四條左ノ通改正追加候旨其筋ヨリ達相成候條此旨該營業人へ可
相達事

十二年五月十
六日滋賀縣甲
第三十三號布
達ヲ以テ醫務
取締ヲ廢ス

行商ニ係ル條
件ハ現今郡長
ノ掌管ニ屬ス

十一年九月十
四日滋賀縣甲
第五十二號布
達ヲ以テ二通
ヲ一通ト改ム

農商工

第二條追加

一營業鑑札請賣鑑札ハ所持人ノ居家ニ限リ營業ノ權アルモノニ付別戸支店等ニ於テハ別ニ其居住人ニ於テ鑑札ヲ所持スルニ非サレハ營業スルヲ得ヘカラス

第四條

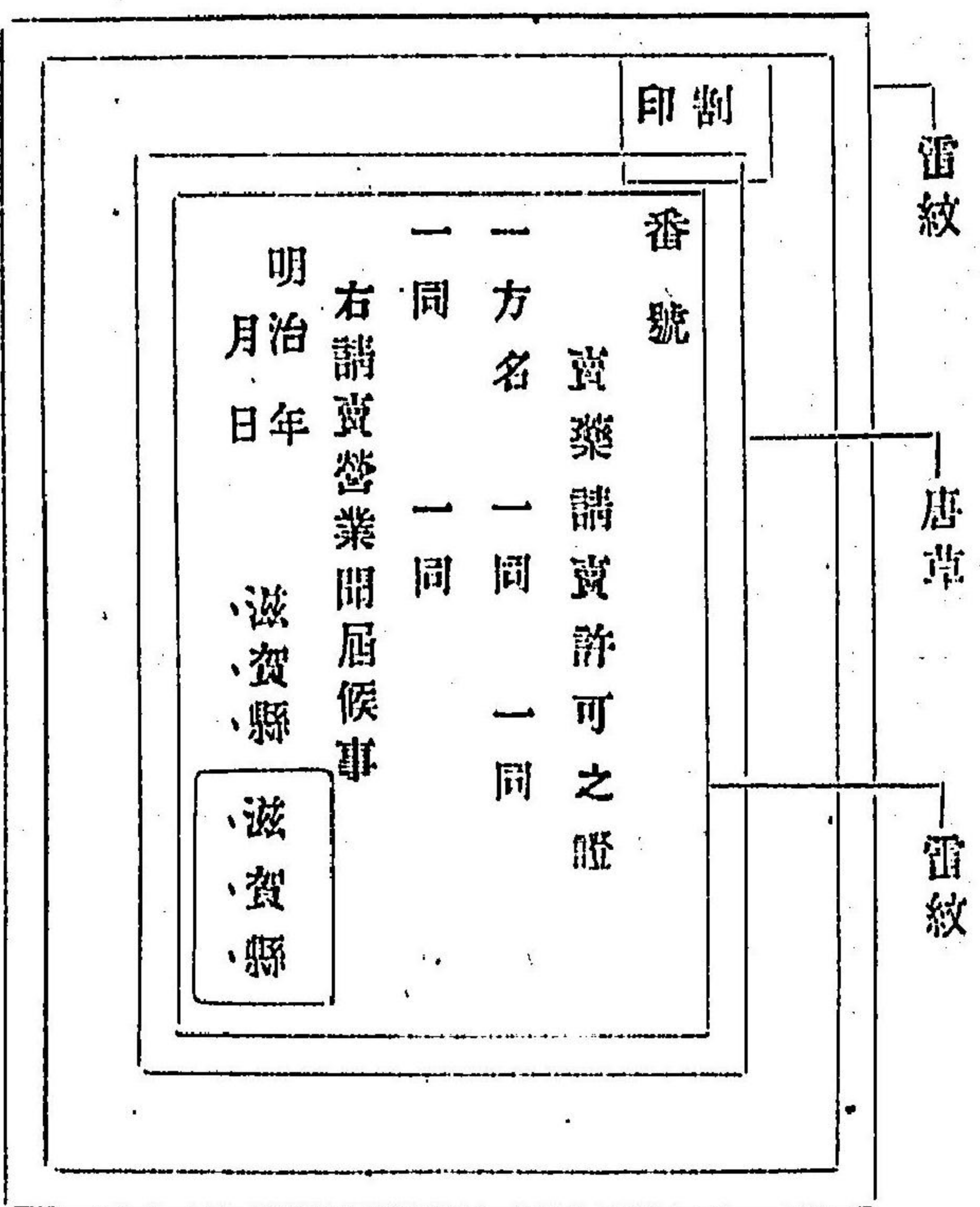
一明治八年七月以降本年一月規則發行前ノ鑑札所持ノ者本年六月マテニ廢業届出候分ハ特別ノ詮議ヲ以テ本年ニ限り前半期ノ税金ハ免除スヘシ

○明治十一年三月二十一日滋賀縣甲第拾九號布達
昨十年當縣乙第二拾四號布達賣藥營業願手續中第八條第九條別紙ノ通改正第十條追加候條此旨布達候事

別紙

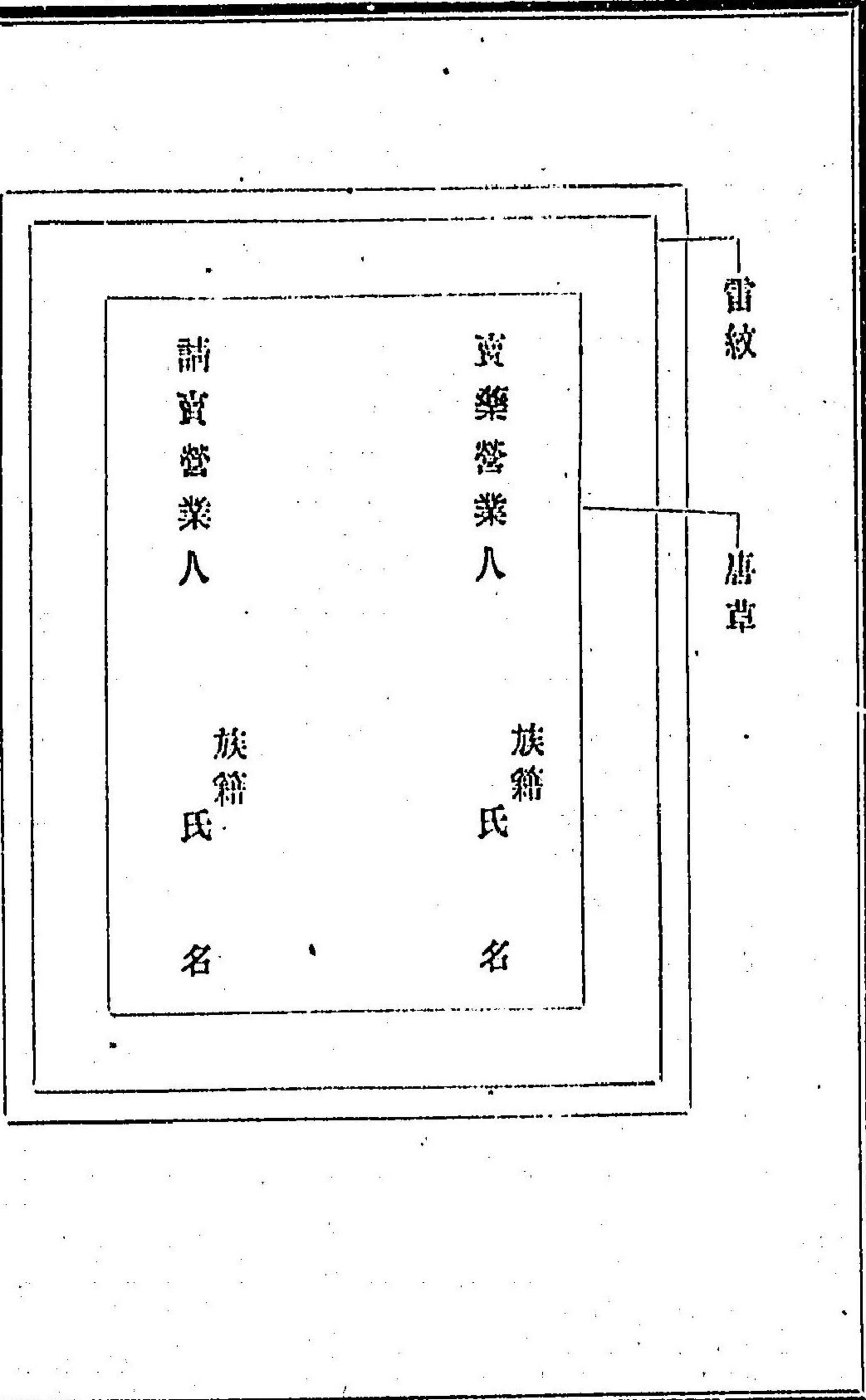
十年當縣乙第二十四號布達ハ前ニ出

第八條 請賣鑑札離形改正



印章二顆共
原本朱墨
請賣願ハ現今
郡長ニ於テ受
理スルニ付鑑
札表面ハ郡役
所ノ名印ヲ用
ユ

原本鑑札裏面
ニ印章ヲシト
イヘ現分下
付ノ鑑札ニハ
左ノ如キ朱印
ヲ押捺セリ
賣藥請賣
許可之證



十一年九月十
四日滋賀縣甲
第五十二號布
達ヲ以テ二通
ヲ一通ト改ム
其布達ハ後ニ
出

現今各府縣共
大小區ノ制之
レナシ

第九條

○賣藥請賣鑑札願書式

用紙半紙ニテ二通ツ、但便宜ノ爲メ願書ヲ印刷セシモノハ當分美濃紙ヲ用ユ

賣藥請賣願
一方名 一同 一同 一同
右營業人

何府縣何國何郡何區何町何番地
華土族或ハ平民

氏名

但營業人異ナレハ假令一方タリト必ス各營業者ノ族籍住所氏名ヲ上ノ例ニ倣ヒ之ヲ區別シテ記載スヘシ(此但書全文)
右ノ賣藥幾方今般請賣仕度依テ別紙營業者所持ノ御免許鑑札寫並約定書相添此段奉願候也

十二年五月十六日滋賀縣甲第三十二號布邊ヲ以テ區制ヲ廢シ同日同甲第三十三號布邊ヲ以テ區制ヲ取銷ス
○請賣願ハ現今郡長ニ於テ受理ス

十一年九月十四日滋賀縣甲第五十二號布邊ヲ以テ三通ヲ二通ト改メ二通ヲ一通ト改メ

何郡第何區何町何番地

華士族或ハ平民

年號月日

請賣願人 氏 名 印

醫務取締

氏 名 印

滋賀縣令 苗字 名 殿

賣藥請賣約定書

川紙本紙各一紙券界紙ヲ用ヒ控方半紙ニテ各一通ツ、但撥用ハ

モノ調ケナシキ

○賣藥營業鑑札並請賣鑑札遺失ノ節書換願書式 用紙營業鑑札並請賣鑑札遺失ノ節書換願書式 換願ハ英滿紙ニ

テ三通請賣鑑札書換願

追加

○賣藥營業人並請賣人相續改名等ニ付鑑札書換願書式 用紙營業

願ハ英滿紙ニテ三通請賣鑑札書換願ハ半紙ニテ二通ツ、

改相續ニ付賣藥營業鑑札御書換願

一方 名 第 明治何年何月何日付 一方 名 第 明治何年何月何日付

或ハ

第何號 明治何年何月何日付

一方 名 一同 一方 名 一同

右營業人

何府縣族籍

氏 名

右賣藥御免許ノ上請賣任居候處今般改名仕候ニ付該鑑札返納仕候間御書換被下度此段奉願候也

滋賀縣何町何番地

華士族或平民

氏 名 改相續人

十二年五月十六日滋賀縣甲第三十二號布邊ヲ以テ區制ヲ廢シ同日同甲第三十三號

農商工

年號月日

醫務取締

氏名印

滋賀縣令苗字名殿

第十條 賣藥請賣願行商願等ハ其都度願書ハ鑑札料ヲ添ヘ願出ツ
ベシ

○明治十一年九月十四日滋賀縣甲第五拾貳號布達

昨十年乙第二十四號布達賣藥營業願手續本年甲第十九號布達同手續改正追加ノ内更ニ左ノ通改正追加候條此旨布達候事

乙第二十四號中

賣藥願手續

第五條中追加

布達ヲ以テ醫務取締ヲ廢ス
○請賣ニ係ル條件ハ現今鄂長ノ掌管ニ屬ス○十四年四月二十六日大政官第二十六號布告ヲ以テ請賣行商鑑札料ヲ廢シタルニ付第十條消滅ス但其布告ハ民衆成交律類纂第三編第七十九條ニ於テ十年乙第二十號布達本年甲第十九號布達ハ前ニ出

豎三尺 幅七寸五分

免 許 藥 湯 營 業

第九條中改正

賣藥營業願其他各書式ノ下ニ用紙云々三通ツトアルヲ二通ト改メ二通トアルヲ壹通ト改正ス

同條へ追加

○藥湯營業願書式 用紙英濃紙ニテ二通ツ

藥 湯 營 業 願

一 浴 劑

一 劑 ノ 量

何 藥 量 目 何 程 何 藥 量 目 何 程

農商工

何藥並目何程

以上幾味水何程ニ浸漬或ハ溶和ス

一 溫度 攝氏或ハ華氏 何十度

一 入浴 度 數 一日何度ヨリ何度マテ

一 主治 功能 詳細

▲他人ノ發賣セル浴劑ヲ用フルモノハ左ノ通認ムヘシ

一 浴劑

方名

何府縣族籍

右營業人

氏

名

▲原本朱字

▲原本朱字

刺書ノ右傍ニ
アル〇〇〇點
ハ編者ノ標點
ニアラス

▲溫度以下三項ハ前ノ例ニ準ス

右ハ今度新ニ營業仕度奉存候間御檢査ノ上御差支無之候ハ、免許
鑑札御下渡被下度依テ製劑(他人ノ製劑ヲ用フルモノハ左ノ三
ヲ加フ並ニ營業人所持ノ免許鑑札寫)
相添此段奉願候也

十二年五月十
六日滋賀縣甲
第三十二號布
達ヲ以テ區制
ヲ廢シ同日同
甲第三十三號
布達ヲ以テ附
務取締ヲ廢ス

滋賀縣何國

何郡何區何町何番地

華士族平民

年月日

本人

氏

名印

醫務取締

氏

名印

滋賀縣令苗字名殿

○賣藥營業請賣行商廢業届書式 用紙半紙ニテ二通

賣藥營業御届

第何號

一方名

第何號

一方名

右今般廢業仕候ニ付此段御届且鑑札何葉返納仕候也

農商工

十二年五月十六日滋賀縣甲第三十二號布達ヲ以テ區制ヲ廢シ同日同甲第三十三號布達ヲ以テ醫務取締ヲ廢ス
○請發行商ニ係ル條件ハ現今郡長ノ管轄ニ屬ス

十年乙第二十四號布達ハ前ニ出

滋賀縣何國何郡何區何村何番地

華士族平民

本人

氏

名印

醫務取締

氏

名印

滋賀縣令苗字名殿

甲第十九號中

第九條

○賣藥請賣鑑札願其他各書式ノ下ニ用紙云々ニ通ツ、トアルヲ一通トシ三通トアルヲ二通ト改正ス

○明治十一年十一月二十一日滋賀縣乙第七號布達

昨十年乙第二十四號布達賣藥營業願手續中左ノ通改正候條此旨布達候事

第八條 諸鑑札離形ノ内改正

唐草

營業鑑札合勘之印

▲番號

何府何大區何小區何國何郡
何村何番地

何之誰

方名

右免許候事

明治 日年

內務省

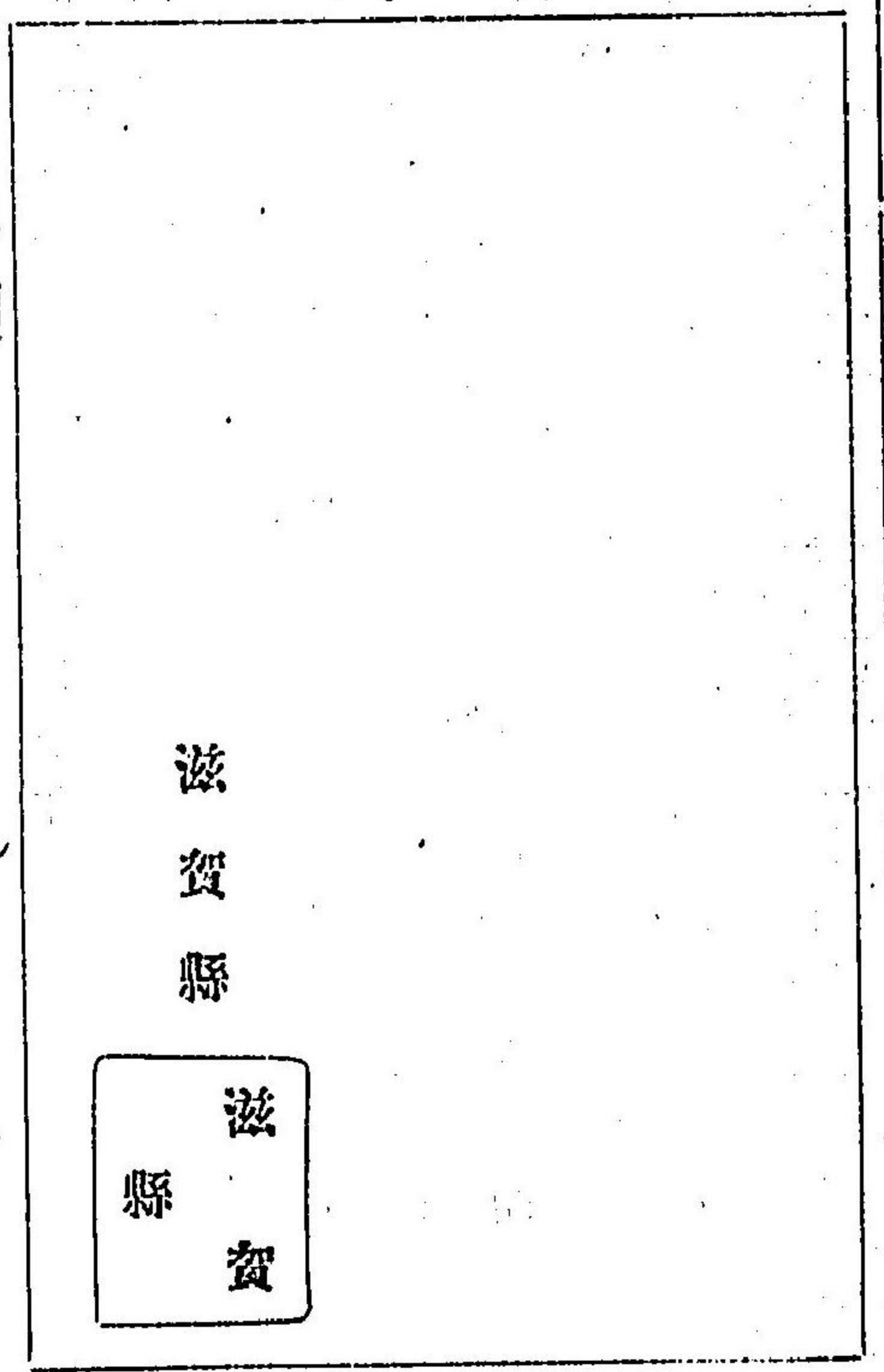
省 內 務 印

現今各府縣共大小區ノ制之レナレ
印章二顆共原本朱書

印章原本朱書

但書ノ右傍ニアル〇〇〇點ハ編者ノ標識ニアラス

同 上 裏 面



第九條中へ増補

買營業願書式ノ内(主治功能詳細)ノ左傍へ左ノ三十一字ヲ加フ
 但發賣ノ時藥劑ニ附スベキ功能書ノ最明細ナルモノヲ其儘記載スヘシ

第七百拾壹條

賣藥免許期限後引續キ營業セント欲スル者ハ期限一ヶ月前ニ出願スベキ事

本縣甲第十六號布達ハ賣藥規則ヲ管内ニ配付シタルニ止リ他申ナキニ付界ス但賣藥規則ハ民申成文並類纂初編第三百八十五條ニ出

○明治十三年四月六日滋賀縣丙第拾七號達_{戸長役}場へ
 明治十年第七號公布即本縣甲第拾六號布達賣藥規則中第八條ニ記載有之候通營業鑑札請賣鑑札行商鑑札ハ其鑑札面記載ノ月ヨリ滿五年ヲ以テ免許ノ期限ニ付明治八年中營業鑑札下付ノ者ハ本年ニ至リ滿五年期ニ候條右等ノ者ハ舊鑑札ヲ返納シ更ニ新鑑札可願出管ニ付引續キ營業候者ハ期限一ヶ月前舊鑑札相添へ所管郡役所ヲ經テ可願出方一規則ニ背キ期限過タル鑑札ヲ以テ營業候者ハ犯則ヲ以テ論シ處分相成候條心得違無之様該營業者へ懸篤告示可致此旨相達候事

第七百拾貳條

賣藥免許期限ヲ過ギ後期ノ免許ヲ受ケタル者及ヒ期限中藥品等改正ノ者徵稅方

○明治十四年七月十二日滋賀縣丙第五拾貳號達所^{郡役}
賣藥營業者免許期限ヲ過キ後期ノ免許ヲ受ケ候者及營業期限中藥
品其他改正ニ付鑑札書換候者税金徵集方ノ儀ハ總テ新規同額更ニ
徵收ノ儀ト可相心得此旨相達候事

但昨十三年九月以來後期ノ免許ヲ受ケ候者鑑札料ノニ徵收セシ
分ハ税金追徵可致藥味其他改正ニ付鑑札書替候者ハ鑑札料ノニ
徵收セシ者ト雖モ本年五月以前ニ係ル分ハ追徵ニ及ハス

第七百拾三條 賣藥營業者廢業ノ節届出方

○明治十一年十月十一日滋賀縣丙第貳百拾四號達^{區長戸}

^(本文ハ第貳百拾壹條ニ出)

第七百拾四條 賣藥營業者廢業又ハ禁止ノ節ハ請賣行商者ノ氏名
等申告スベキ事

○明治十三年八月十二日滋賀縣丙第五拾四號達^{郡役}

後ニ觀スル十
四年四月七日
滋賀縣甲第五
十四號布達參
看スヘシ○賣
藥規則ハ太政
官ノ布告ニ係
ル故ニ署ス但
民市成文律類
籍初編第三百
八十五條ニ出

賣藥營業者廢業又ハ禁止ノ節ハ其請賣行商者モ亦賣藥規則第十一
條及第十五條ニ據リ鑑札返納可致ハ勿論ノ儀ニ候得共若請賣行商
者遠隔ノ地ニ在テ營業者ノ廢止ヲ了知セサル歟或ハ故意等ニテ在
再販賣スル等ノ儀有之候テハ取締上差支不少候處今般其筋ヨリ照
會ノ旨モ有之候ニ付自今營業者廢業又ハ禁止等ノ節ハ其時々請賣
者ノ住所氏名ハ營業者ニ就キ行商者ノ住所氏名ハ其役所帳簿ニ就
キ取調管内ノ分ハ互ニ郡役所へ通報シ管外ノ分ハ廢業鑑札返納ノ
際衛生課へ通報可致此旨相達候事

○明治十四年四月七日滋賀縣甲第五拾四號布達

賣藥營業ノ者廢業スル時ハ其請賣行商者ノ住所氏名^(管内外)請賣者
廢業スル時ハ其行商者ノ住所氏名^(管内外)ヲ記載シ廢業届書ニ添ヘ
可差出若シ請賣行商共無之時ハ其旨可届出此旨布達候事
但禁賣ノ處分ヲ受ケタル時モ本文ニ準シ可届出事

第七百拾五條 賣藥請賣行商報告書々式并ニ進達期限ノ事

○明治十四年十月五日滋賀縣丙第七拾六號達所へ

(本文ハ第八百三拾四條ニ出)

第七百拾六條 酒類ニ藥品ヲ配伍シ販賣スル者賣藥免許鑑札ヲ下

付スルト酒類税ヲ課スルトノ區別

○明治十二年三月七日滋賀縣甲第拾五號布達

從來酒類ニ藥品ヲ配伍シ販賣候者ハ賣藥免許鑑札下付致來候向モ有之候處右ハ醫業ニ供スル別紙記載ノ品類ヲ除クノ外酒類ヲ和シ飲料ニ供スル者ハ假令藥品ヲ配伍スト雖モ總テ酒類税則ニヨリ課税可致就テハ從前下附致候賣藥鑑札ハ返納可爲致旨其筋ヨリ達有之候條此旨布達候事

別紙

精劑

十二年八月二十九日滋賀縣甲第百七號布達ヲ以テ附令アリ參看スヘシ其布達ハ後ニ出○酒類税則ハ文政官ノ布告ニシテ十三年九月二十七日大政官第百四十號布告ヲ以テ全部改正ス故ニ登錄ス但民事成交律類第三編第九十條ニ出

酒精

ホフマン氏鎮痛液

甘硝石精

礮砂加阿糖精

アチース精

芳香礮砂精

カヤフーテ精

コロ、フアルム精

枸櫞皮精

蟻精

複方杜松子精

複方ラートヘンデル精

複方マステック精

再釀酒精

甘塩精

礮砂精

複方白世精

芳香精

複方アルモラシア精

龍腦精

桂皮精

山芥菜精

杜松子精

ラーヘンデル精

檸檬精

英國縮葉薄荷精

復方原本ノマ、復方ノ照ナラシ

復方原本ノマ、復方ノ照ナ

農商工

ラン

椒性薄荷精
 ヨーレンシア精
 迷迭香精
 セルヒルリ精
 双鸞菊精
 失鳩答精
 菲沃斯精
 番木龍精
 フロシクム實精
 丁幾
 亞爾蘇丁幾
 芳香酸丁幾
 蘆薈丁幾

薄荷精
 肉豆蔻精
 石鹼精
 芥子精
 荳蔻精
 實艾答利精
 萬苴精
 アルニカ花精
 橙皮精
 復方亞爾蘇丁幾
 雙鸞菊丁幾
 復方蘆薈丁幾(蘆薈沒藥丁幾)

復方原本ノママ
 複方ノ誤ナ
 ラン
 復方原本ノママ
 複方ノ誤ナ
 ラン
 復方原本ノママ
 複方ノ誤ナ
 ラン

苦味丁幾
 アルニカ丁幾
 阿魏丁幾
 橙皮丁幾
 パルカム丁幾
 安息香丁幾
 ビエツコ丁幾
 コロンボ丁幾
 亞的兒製龍腦丁幾
 亞的兒製荳蔻丁幾
 益智丁幾
 カスカリルヲ丁幾
 カナダ産カストル丁幾

ホルスター氏苦味丁幾
 芳香丁幾
 亞的兒製阿魏丁幾
 新鮮橙皮丁幾
 荳蔻丁幾
 復方安息香丁幾
 泥蒿丁幾
 復方龍腦丁幾
 荳蔻丁幾
 蕃椒丁幾
 復方益智丁幾
 亞的兒製カストル丁幾
 シピリア産カストル丁幾

- 阿仙藥丁幾
- 褐色機那丁幾
- 複方機那丁幾
- 赤色機那丁幾
- キノイシチ丁幾
- キラダ丁幾
- 黃色機那丁幾
- 複方コロロホルム丁幾
- 桂皮丁幾
- コーシチール丁幾
- コルシクム丁幾
- コロシント丁幾
- 失鳩苔丁幾
- カフランド丁幾
- 畢澄脂丁幾(キユベバ丁幾)
- 梔子丁幾
- 石鹼丁幾
- 複方アルモラシヤ丁幾
- シキタリス丁幾
- 亞的兒製シキタリス丁幾
- 續隨子丁幾
- 醋酸鉄丁幾
- 塩化鉄丁幾
- 亞的兒製鹽化鉄丁幾
- 林檎酸鉄丁幾
- 沒食子丁幾

- ゲンチアナ丁幾
- 複方ゲンチアナ丁幾
- 癒瘡木丁幾
- 揮發性癒瘡木丁幾(礫砂加癒瘡木丁幾)
- 絲黎蘆丁幾
- ヘレニ丁幾
- 忽布丁幾
- ヒオス丁幾
- ヨシウム丁幾
- 複方ヨシウム丁幾
- 脱色ヨシウム丁幾
- 吐根丁幾
- ヤーラツバ丁幾
- 複方ヤーラツバ丁幾
- キノ丁幾
- ラタニア丁幾
- ワリシヌ丁幾
- 複方ラーヘンデル丁幾(ターヘンデル丁幾)
- 檸檬丁幾
- ロベリア丁幾
- 亞的兒製ロベリア丁幾
- リュプリニア丁幾

肉豆蔻丁幾
 麝香丁幾
 揮發鹽化鎮丁幾(ヘスチエッフ氏神經丁幾)
 芥木甞丁幾
 安息香阿片丁幾
 單阿片丁幾
 礮砂精加阿片丁幾
 複方松茸丁幾
 括失亞丁幾
 礮砂精加規尼涅丁幾
 大黃丁幾
 酒製大黃丁幾
 ヤビナ丁幾

亞的兒製肉豆蔻丁幾
 沒藥丁幾
 阿片丁幾
 舍電鎮談氏阿片丁幾
 脫臭阿片丁幾
 地榆丁幾
 ビレトリユム丁幾
 規尼涅丁幾
 ヤーラツパ脂丁幾
 水製大黃丁幾
 大黃加解那丁幾
 麒麟血丁幾

草原本ノマハ
 恐クハ毒ノ膠
 ナラン

海葱丁幾
 麥奴丁幾
 解那丁幾
 複方スピランチヌス丁幾
 亞的兒製馬錢子丁幾
 シユンブル丁幾
 トリュエタナ丁幾
 額草丁幾
 礮砂精加額草丁幾
 生姜丁幾
 亞的兒製荳蔻丁幾
 亞的兒製非沃斯丁幾
 白黎蘆丁幾

加里加海葱丁幾
 遠志丁幾
 セルベンタリア丁幾
 曼陀羅萃丁幾
 琥珀丁幾
 チニヤ丁幾
 トキシコテンドリ丁幾
 亞的兒製額草丁幾
 プアニルラ丁幾
 強生姜丁幾
 亞的兒製失鳩答丁幾
 亞的兒製龍腦丁幾

酒劑

- 蓋香酒
- 芳香酒
- 龍膽酒
- コロシクム酒
- コロシクム實酒
- 鎮酒
- 拘櫟酸鎮酒(拘櫟酸アンモニア鎮酒)
- 吐根酒
- 大黃酒
- アンチモニー酒
- 酒石酸加里鎮酒
- 苦味酒
- 橙皮酒
- 機那酒
- コロシクム根酒
- 麥奴酒
- ペプシ子酒
- 海葱酒
- 煙草酒

○明治十二年八月二十九日滋賀縣甲第百七號布達

本年本縣甲第
十五號布達ハ
前二出酒類
稅則ハ八年二
月二十日太政
官第二十六號
布告ニシテ十
三年太政官第
四十號布告ヲ
以テ全部改正
ス故ニ登載セ
ス但民申成文
書類第三編
第九十條ニ出

賣藥規則ハ十
年一月二十日
太政官第七號
布告ニシテ本
縣ノ布達ニア
ラス故ニ登載
セス但民申成
文書類初編
第三百八十五

本年三月本縣甲第拾五號ヲ以テ酒類ニ藥品ヲ配伍シ販賣候者云々及
布達候處右布達ニ掲載セル品目外ノモノニシテ酒類ヲ和スト雖モ
全ク藥性ヲ浸出スルニ止ルモノハ酒類稅則ノ限ニアラス其種類ニ
ヨリ製藥又ハ賣藥ノ免許ヲ可相受此旨布達候事

但酒類營業人及ヒ酒類受賣營業人於テ酒精或ハ再留酒精ヲ蒸餾
シ又ハ販賣スル者ハ酒類稅則中燒酎ノ明文ニヨリ課稅候事

第七百拾七條 藥湯ハ賣藥規則中浴劑ノ一部ニ付無鑑札ニテ營業

相成ラザル事

○明治十一年九月十四日滋賀縣甲第五拾壹號布達

藥湯ハ賣藥規則第一條浴劑ノ一部ニ付藥劑ノ自他製造ヲ問ハス無
鑑札營業ハ不相成管ニ候條爲心得此旨布達候事(第七百拾條中ニ關
連式アリ參看ス)
但海水或ハ天然ノ鐵泉ヲ汲取リ浴場ヲ開クモノ及專ラ浴湯ノ臭
氣ヲ掩ハンガ爲メ無効害ニシテ佳香アル藥品ヲ用フルノミニテ

藥湯ト稱セヌ主治効能ヲモ公示セサルモノハ本文ノ限ニアラス
第七百拾八條 賣藥規則部外藥劑調製並ニ販賣規則

○明治十五年二月二十三日滋賀縣甲第三拾六號布達

賣藥部外藥劑調製並販賣規則別冊ノ通相定來ル四月一日ヨリ施行
候條此旨布達候事

但從前當廳ノ許可ヲ得タル調劑者ハ更ニ願出ルニ及ハス候事

別冊

賣藥部外藥劑調製並販賣規則

第一條 此規則ニ稱スル所ノ賣藥部外藥劑トハ鼠取藥蠅取藥虱失
セ紉ノ類其他田圃ニ用フル驅蟲藥食物ノ損敗ヲ修治防止スル
諸藥等總テ人畜治病ノ目的ニ非スシテ調製販賣スル藥劑ヲ云フ
第二條 前條ニ掲ケル藥劑ヲ調製シテ販賣セント欲スル者ハ第一
號式ノ書面ニ製劑ヲ添ヘ所管郡役所ヲ經テ當廳ヘ願出免許鑑札

ヲ受クヘシ但他管ニ於テ曾テ發賣ノ免許ヲ得タル者當縣下ニ轉
籍若クハ寄留シテ仍ホ營業セント欲スル者モ本條ニ準シ願出ヘ
シ

第三條 當廳ニ於テハ願書ヲ檢査シ其製劑配伍ノ藥品劇毒微毒ニ
拘ハラヌ取扱上失誤ヲ生シ易キモノ及毒劇藥取締ニ關係スルモ
ノハ之ヲ許サハルヘシ

第四條 既ニ許可ノ後ト雖モ其製劑前條ニ掲ケル有害品ナルヲ更
ニ發見スルキハ直ニ鑑札ヲ取上ケ發賣ヲ禁止スルコトアルヘシ

第五條 既ニ許可ヲ得タル製劑ト雖モ其藥味分量用法能書方名等
ヲ改正セント欲スルキハ一旦鑑札ヲ返納シ更ニ第二條ノ手續ヲ
爲シ新鑑札ヲ受クヘシ

第六條 調劑者免許鑑札ヲ他人ニ讓渡サント欲スルキハ第二號式
ノ書面ヲ所管郡役所ヲ經テ當廳ヘ差出シ鑑札書換ヲ請フヘシ但

他管ノ者ヨリ譲リ受ケ又ハ他管ノ者へ譲渡スヲ許サス
 第七條 第一條ニ掲クル藥劑ヲ請賣セント欲スル者ハ第三號式ノ書面ニ調劑者所持ノ免許鑑札寫ヲ添へ所管郡役所へ願出請賣鑑札ヲ受ケヘシ但他管ノ調劑者ニ係ル藥劑ト雖モ其管轄處許可ノ證アルモノハ當處ノ許可ヲ得タルモノト同ク當縣下ニ於テ請賣スルコトヲ得ヘシ

第八條 調劑者及請賣者ニ於テ自ラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サシメント欲スルキハ第四號式ノ願書ヲ所管郡役所へ差出シ行商鑑札ヲ受ケ行商スルキハ必ス之ヲ所持スヘシ
 第九條 調劑者廢業スルカ又ハ禁止セラル、キハ速ニ請賣者賣子等ニ通知スヘシ

第十條 請賣者賣子等前條ノ通知ヲ受ケタルキハ速ニ販賣ヲ止メ鑑札ヲ返納スヘシ

第十一條 諸鑑札ハ本人廢業若クハ死亡スルキハ之ヲ返納シ改氏名代替リ其他身上ニ異動ヲ生シタルキハ書換ヲ請フヘシ但廢業其他ノ事故ニ依リ鑑札ヲ返納スルキハ其届書ニ請賣者若クハ賣子ノ住所氏名ヲ記載スヘシ

第十二條 水火盜難過誤等ニテ諸鑑札ヲ毀失シタルキハ其事由ヲ詳具シ再渡ヲ請フヘシ

第十三條 免許ヲ得シテ藥劑ヲ調製シ又ハ請賣行商シ又ハ此規則第五條第九條第十條ニ違背シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處スルノ外尙其藥劑ハ時宜ニ依リ行政ノ處分ヲ以テ廢棄セシムルコトアルヘシ

第一號

賣藥部外藥劑檢査願 川紙半紙ニテ

一方名

藥品分量

製法

用法

功能

右藥劑調製發賣仕度候間御檢査ノ上免許鑑札御下渡被下度依テ製劑相添此段奉願候也

住所族籍

年號月日

滋賀縣令氏名殿

前書相違無之ニ付與書仕候也

戶長

氏名印

氏名印

衛生委員

氏名印

第二號

賣藥部外藥劑讓渡願 川紙半紙ニテ

一方名

藥品分量

製法

用法

功能

右ハ何年何月御檢査済鑑札御下渡營業仕候處今般何某へ讓渡申候依テ所持ノ鑑札返納仕候間御書換被下度此段奉願候也

住所族籍

年號月日

讓渡人 氏

名印

住所族籍

讓受人 氏

名印

滋賀縣令 氏 殿

(奥書式同前但讓渡人讓受人双方ノ戸長衛生委員奥書調印スヘシ)

第三號

賣藥部外藥劑請賣願ニテ紙半紙

一方名 一方名 一方名

住所族籍

右調劑者

氏 名

(調劑者異ナレハ假令一方ヨリトモ必調劑者ノ住所族籍氏名ヲ上ノ例ニ依ヒ記載スヘシ)

右ノ藥劑何方請賣仕度依テ別紙調劑者所持ノ免許鑑札寫相添此段

奉願候也

住所族籍

年號月日

請賣願人 氏

名印

滋賀縣何郡長 氏 名 殿

(奥書式第一號ニ同シ)

第四號

賣藥部外藥劑行商願ニテ紙半紙

一方名 一方名 一方名

住所族籍

右調劑者

氏 名

住所族籍

賣子 氏 名

(願人請賣者ナレハ左ノ通り認ムヘシ)

農商工

右調劑者 住所族籍 氏 名

右請賣者 住所族籍 氏 名

(賣子ノ住所族籍氏名ハ前ニ同シ)

右ノ藥劑自分(賣子派出)行商仕度候間行商鑑札御下渡被下度此段奉願候也

右調劑者(請賣者) 氏 名 印

年號月日 滋賀縣 何郡長 氏 名 殿

(與書式第一號ニ同シ)

第五號 諸鑑札雛形

調劑 番號 賣藥部外藥劑許可之證 寸法 縱五寸五分

免許 一方名 氏 名 橫四寸

鑑札 右免許候事 但紙製

年月日 滋賀縣 印

請賣 番號 賣藥部外藥劑請賣許可之證 寸法同前

鑑札 一方名 一方名 一方名 但紙製

右請賣免許候事

表面 年月日 滋賀縣 何郡役所 印

全上	請賣者	住所	住所
裏面	氏名	氏名	氏名
行商	一方名	一方名	一方名
鑑札	一方名	一方名	一方名
表面	右行商	免許候事	

賣藥部外藥劑行商許可之証

寸法
 縱三寸五分
 横二寸五分
 但木製

全上	年月日	烙印
裏面	滋賀縣	
	何郡役所	
	番號	

第七百拾九條 茨城縣下新橋政次發賣ノ退鼠臨發賣禁止ノ事
 ○明治十三年十一月二十二日滋賀縣甲第四百拾三號布達
 茨城縣管下常陸國行方郡水原村平民新橋政次發賣ノ退鼠臨近來竊
 ニ砒石ヲ混和販賣致候ヲ發見シタルニ付直ニ發賣禁止申付候旨該
 縣ヨリ通知有之候ニ付テハ自然常管内ニ於テ右退鼠臨請賣又ハ行

商致候者ハ自今發賣不相成候條此旨布達候事

第七百貳拾條

茨城縣下金澤德兵衛發賣ノ鼠取藥船津市平發賣ノ
蠅失紙發賣禁止ノ事

○明治十三年十二月十一日滋賀縣甲第百五拾四號布達

茨城縣管下東茨城郡常盤村金澤德兵衛發賣ノ鼠取藥同縣下筑波郡
小田村船津市平發賣ノ蠅失紙何レモ近來竊ニ砒石ヲ混和販賣致候
ヲ發見シタルニ付直ニ發賣禁止申付候旨該縣ヨリ通知有之候ニ付
テハ自然當管内ニ於テ右鼠取藥蠅失紙等請賣又ハ行商致候者ハ自
今發賣不相成候條此旨布達候事

第七百貳拾壹條

着色塗抹スル儀禁止ノ事

○明治十一年五月一日滋賀縣甲第三拾貳號布達

近年アニリン其他鐵屬金石類製ノ繪具染料ヲ以テ飲食物ニ着色スル

第八百七十九
條ニ載スル十
五年一月十八
日滋賀縣甲第
十五號布達並
醫藥第二條第
二項參看スベ
シ

モノ不眇趣ニ候處右ハ自然人身ノ健康ヲ害スルハ勿論中ニハ甚シ
キ中毒ニ罹リ忽チ非命ノ横死ヲ致スモノモ有之危險ノ至ニ付自今
左ノ品種ヲ以テ飲食物ニ着色塗抹候儀ハ禁止候條此旨布達候事

紺青 綠青

此二品ハ銅ヲ含有ス毒アリ

洋 藍ベレンスト云 毒アリ

鬱 金 砂 毒アリ

但鬱金根ヨリ製シタル鬱金粉ハ毒ナシ

紅 粉 紺 粉 茶 粉 青 竹 粉 緋 粉

紫 粉

此六品ハ何レモアニリンヨリ製スルモノニシテ坊間ニ散在
スルモノ往々毒アリ

第七百貳拾貳條 繪具染料等取扱方

本年第一號ハ
大政官ノ布告
ニ係ル故ニ登
録ス但民事
成文律類第
二編第六十一
條ニ出

○明治十三年四月七日滋賀縣甲第貳拾九號布達
本年一月第壹號ヲ以テ藥品取扱規則公布相成候ニ付テハ繪具染料
等モ第二類并第三類表中ニ掲載有之モノハ該規則ニ照シ賣買可致
義ト心得ヘシ此旨布達候事

○第拾貳款 古衣古鉄古道具及質屋
第七百貳拾三條 四品商取締規則

九年本縣七第
百二十七號布
達ハ廢止ニ付
略ス

○明治十二年九月二日滋賀縣甲第百拾貳號布達
明治九年^九本縣乙第百二十七號布達古着古鉄商取締規則相廢シ更
ニ別紙ノ通四品商取締規則相定候條此旨布達候事

別紙

四品商取締規則(此規則ハ十六年一月十三日滋賀縣甲第六號
布達ヲ以テ全部ヲ廢シ更ニ雜商取締規則ヲ
定メタルニ付略ス但甲第六號布達ハ十五年
七月以後ノ發令ニ付第貳編ニ編入スヘシ)

○明治十四年九月六日滋賀縣甲第百四拾三號布達
(本文ハ同上)

○明治十五年四月二十一日滋賀縣甲第百八拾七號布達
(本文ハ同上)

○第拾三款 煙草

第七百貳拾四條 煙草營業出願ノ者ハ必ズ仕入鑑札ヲ交付等ノ事

○明治九年一月十九日滋賀縣甲第貳拾九號布達

太政官昨八年第百五十號即チ當縣同年甲第百六十三號ヲ以テ煙草課稅規則及布達候處今般右營業出願ノ者ニ鑑札可下渡候條規則ノ通鑑札料一區限リ區長ニ於テ取東子來ル二月二日ヨリ五日マテニ無遲滯相納鑑札受取方可申出候事

但仕入鑑札ハ賣買營業ノ際必ズ携帶可致ニ付出願無之者エモ可相渡候條此旨可相心得事

一右營業廠ノ儀ハ成規ノ通區戶長與印ヲ以テ可願出管ノ處無其儀願書差出候向有之不都合ニ候條以來屹度可相心得事

右管内煙草賣買營業人并區戶長ニ無洩至急布達スル者也

常縣甲第百六十三號布達ハ煙草稅則ヲ管内へ配付スルニ止リ他事ナキニ付略ス但煙草稅則ハ民軍成文雜類幕初編第百九十二條ニ出

十二年五月十六日滋賀縣甲第三十三號布達ヲ以テ區長ヲ廢ス

第七百貳拾五條 卷煙草ヲ販賣スル者ハ營業鑑札ヲ請クベク及ヒ當分印紙貼用ニ及バザル事

○明治十一年三月十三日滋賀縣丙第百五拾八號達區長戶

葉卷煙草又ハ紙卷ニ製造シタル煙草ヲ販賣スルモノハ内外産ニ拘ハラヌ假令他ノ營業ヲ兼ルモノト雖モ來ル四月二十日限リ營業鑑札可願出最モ當分ノ内卷煙艸ニ限リ印紙貼用ニ不及候條此旨該營業人へ可相達事

第七百貳拾六條 煙草營業者廢業ノ節届出方

○明治十一年十月十一日滋賀縣丙第貳百拾四號達區長戶

(本文ハ第貳百拾壹條ニ出)

第七百貳拾七條 製造煙草印紙貼用方調査ノ爲メ臨時縣官派出檢

査ノ事

○明治十一年一月二十五日滋賀縣丙第五號達區長

十年大政官第
十四號公布及
上同大藏省
甲第三十四號
布達八民申成
文律類纂初編
第三百九十二
條二出

製造煙草ノ内自用人ノ購求ニ宛ル分ハ前以テ印紙貼用可致置旨十
年ニ大政官第十四號公布ノ趣モ有之猶又其後御賣小賣兼業ノ者ト
雖モ製造煙草ヲ店頭へ展示スル上ハ總テ印紙貼用可致置旨同年ニ
月大藏省甲第三十四號布達モ有之儀ニ付各營業人疾ク承知ノ儀ニ
ハ可有之候得共今般大藏省官員出張ニ付當縣官員同行巡回煙草店
ニ就キ調査候條厚ク注意シ犯則ノ者無之様該營業人へ無殊至急懇
諭可致此旨相達候事

但今後ト雖モ臨時檢査爲致候條此旨モ豫テ可相達置事

第七百貳拾八條 烟章印紙貼用ノ分ハ必ズ消印スベキ事

○明治十一年二月十八日滋賀縣丙第貳拾八號達區長戸

烟草賣買營業人ニ於テ自用ノ者へ賣渡ストキハ成規ノ通り印紙貼
用實印或ハ仕切判ヲ以テ消印可致ノ處往々店頭ニ陳列ノ品及ヒ賣
渡ノ分トモ既ニ印紙ハ貼用スルモ消印所欠ノ品相見へ不都合ノ儀

十二年五月十
六日滋賀縣甲
第三十二號布

達ヲ以テ區制
ヲ廢シ同日同
甲第三十三號
布達ヲ以テ區
長ヲ廢ス

ニ付自今各區々戸長ニ於テ嚴重取締不都合無之様該營業人へ懇篤
可相達此旨相達候事

○第拾四款 牛馬賣買

第七百貳拾九條 牛馬賣買鑑札交付并ニ請書ノ事

○明治五年壬申七月^日滋賀縣第百四拾貳號布達

牛馬賣買改正鑑札可下渡候條兼テ願出置候者共別紙案文ノ通壹人

別請書相認村役人與印致シ當年分冥加金覺圓宛相添其戸長副戸長

ノ内取纏メ來ル八月十日限り請取ニ出張可致候事

但從前請置候鑑札ハ不殘取纏メ返納可致候事

右管内へ無洩相達スル者也

別紙

御請書

一鑑札壹枚ヲ以牛馬一鼻綱ト可相定候事

但一鼻綱ハ牛馬共七疋ニ限り鑑札壹枚ヲ所持スル者旅行之時

ハ七疋以内貳枚ヲ所持スル者ハ十四疋ニ限。候事

此布達ハ一時
ニ止リテ形式
ニ非ザルが如
シトイヘ其參
看ノタメ編入
ス○後ニ載ス
ル六年一月三
十日滋賀縣第
七十六號布達
參看スベシ

五年十一月四
日大政官第三
百三十號布告
牛馬賣買規則
ニ依テ第二項
中(一)ケ年分
冥加金ノ文字
ハ(税金)ト改
マル其布告ハ
民出成文得類
林初編第四百
五條ニ出(九
年二月十八日
大藏省甲第ニ
號ヲ以テ鑑札
ヲ交ケタル日
ヨリ十五日以
内ニ廢案等ノ
者ハ税金ヲ送
附シ手数料ヲ
收納スベキ旨
ヲ布達セリ其
布達ハ同編第
三百五十二條
ニ出

一右鑑札既ニ渡濟ノ後事故アリテ數日ヲ不厯休業致シ候共一ケ年

分冥加金上納ノ事

一牛馬賣買渡世之者ハ右鑑札所持可致ハ勿論ナリ萬一所持無之モ

ノハ見附次第牛馬取揚可申事

右御規則之趣急度可相守旨被仰渡承知奉畏候仍テ御鑑札體ニ奉請

取候以上

近江國何郡何村

請主 何ノ某印

年寄 何ノ某印

庄屋 何ノ某印

明治五年壬申年八月

滋賀縣

御 廳

○明治六年一月十二日滋賀縣第貳拾八號布達

農商工

鑑札改正ノ布
告ハ五年十一
月四日大政官
第三百三十號
布告ヲ指ス共
布告ハ民事成
文書類編初編
第四百五條ニ
出○兼テノ達
ハ前ニ載スル
五年七月滋賀
縣第四百十二
號布達ヲ指ス

牛馬賣買渡世ノ者免許鑑札今般御改正ニ付及布達候通り昨壬申年
鑑札請居候者共新鑑札引換可相渡候間舊鑑札并當年分税金壹圓可
相納且新規願之者へモ鑑札可相渡間税金壹圓并兼テ相達置候雛形
之通り請書共來ル二月十日限り無延當廳へ持參可致事
右管内牛馬賣買渡世之者并ニ同業新規願之者江無漏相達スル者也
○明治六年一月三十日滋賀縣第七拾六號布達愛知犬上阪田伊香
高島淺井ノ六郡へ
別紙牛馬賣買鑑札請書當縣兼テ之制令ニ候處犬上縣合併相成候ニ
付テハ右新管轄地ニ更ニ相達候事
右管内愛知郡犬上郡阪田郡伊香郡高島郡淺井郡牛馬賣買渡世之者
ニ無洩相達者也
別紙
御請書
一鑑札壹枚ヲ以牛馬一鼻綱ト可相定候事

前ニ載スル五
年七月滋賀縣
第四百十二號
布達ノ滋賀參
看スヘシ

但一鼻綱ハ牛馬共七疋ニ限り鑑札壹枚ヲ所持スル者旅行之時
ハ七疋以內貳枚ヲ所持スル者ハ拾四疋ニ限り候事
一右鑑札既ニ渡濟之後事故アリテ數日ヲ不歷休業致シ候共一ケ年
分冥加金上納之事
一牛馬賣買渡世之者ハ右鑑札所持可致ハ勿論ナリ萬一所持無之モ
ノハ見附次第牛馬取揚可申事
右御規則之趣急度可相守旨被仰渡承知奉畏候仍テ御鑑札體ニ奉請
取候以上
近江國何郡何村
請主 何ノ某印
副戶長 何ノ某印
戶長 何ノ某印
滋賀縣令苗字名殿

明治五年壬申八月

第七百三拾條 牛馬賣買營業ノ者廢業ノ節届出方

○明治十一年十月十一日滋賀縣丙第貳百拾四號達區長戸

(本文ハ第貳百拾壹條ニ出)

第七百三拾壹條 牛馬牽綱制限ノ事

○明治五年壬申二月日滋賀縣布達

六年七月二十九日滋賀縣第七百十三號ヲ以テ牛ノ牽綱ハ三尺ニ限ラザル者ヲ布達ス其布達ハ後ニ出

從來牛馬牽綱ノ儀三尺ニ限リ候處口附ノ者其兎角懶惰ニ相流レ法外ノ長綱ヲ以テ牽行候者有之就中甚々シキニ至リ候テハ口綱追離シ懷手ニテ通行候者モ有之哉ニ相聞ヘ以ノ外不届ノ事ニ候向後右様不法ノ輩於有之ハ見聞次第屹度其咎可申付事

右管内江無洩相達スルモノ也

○明治六年一月二十日滋賀縣第五拾號布達愛知犬上坂田淺井伊香郡高島郡ノ六郡ヘ

別紙之通當縣兼テ之制令ニ候處犬上縣合併ニ相成候ニ付テハ右新管轄地江更ニ相達候條得其意厚ク可相守事(別紙ハ前ニ載スル五年二月ノ布達ナリ故ニ略)

ス

右管内愛知郡犬上郡坂田郡淺井郡伊香郡高島郡江無洩相達スル者也

○明治六年七月二十九日滋賀縣第七百拾三號布達

壬申二月中布達ハ前ニ出

壬申二月中牛馬牽綱之儀ニ付布達ヲヨヒ候處牛之綱ニ於テハ敢テ三尺ニ不限候條實際適宜之寸尺相用可申尤モ牽綱追放シ懷手ニテ通行候等之儀不相成儀ハ兼テ相達候通違背致ス間敷候事

右管内江無洩相達スル者也

第七百三拾貳條 往還街衢ニ於テ十五年未滿ノ男女ニ牛馬ヲ牽ス

マシキ事

○明治九年五月三十日滋賀縣乙第八拾五號告諭

(本文ハ第七百八拾五條ニ出)

○第拾五款

屠獸並賣肉及牛乳

第七百三拾三條

病死牛製方場設置ニ付死牛賣排差許及ヒ死牛肉ヲ食料ノ爲メ賣買セザル様取締ノ事

○明治五年壬申九月二十三日滋賀縣第貳百拾四號布達

大津町牧牛會社總代

山本宗右衛門

丸尾佐右衛門

田中 庄五郎

同 九屋町

山岸 宗兵衛

右之者ヨリ村々便宜之所江相對ヲ以病死牛製方場ヲ取設死牛有之節ハ相當之價ヲ以買入食料不相成襟脂肪ヲ取并肥シ物ヲ製造之義願出聞置候ニ付此段違置候自然死牛有之節牛主之存意ニ任セ相應

第七百三十四條ニ載スル十三年八月二十四日滋賀縣第百九號布達牛馬肉販賣并ニ斃牛馬取扱營業規則參看スヘシ

之直段ニテ賣排候儀可爲勝手候事

但願人共買請候病死牛肉ヲ食料ノ爲メ賣買イタシ候様之儀見受候ハ、速ニ可届出候事

右管内へ爲心得無洩相達スルモノ也

○明治六年二月二十四日滋賀縣第貳百七號布達

愛知犬上坂田淺井伊香高島ノ六郡へ別紙之通兼テ及布達置候處犬上縣合併相成候ニ付テハ右新管轄地

江更ニ相達候事

右管内愛知郡犬上郡坂田郡淺井郡伊香郡高島郡江無洩相達スル者

也別紙ハ前ニ載スル五年第ニ百十四號布達ナリ故ニ略ス

第七百三拾四條

牛馬肉販賣并ニ斃牛馬取扱營業規則

○明治十三年八月二十四日滋賀縣第百九號布達

明治九年三月本縣第百四十號及ヒ同年九月丙第百七十三號布達屠牛

並肉類賣買營業準則相廢シ更ニ牛馬肉販賣並斃牛馬取扱營業規則

九年本縣第百四十號及ヒ同年丙第百七十三號布達ハ廢シニ付略ス

第八百七十九條ニ載スル十五年一月十五日滋賀縣第百十五號布達並ニ第百四項及ヒ第三條第ニ項參看スヘシ

九年本縣第百四十號及ヒ同年丙第百七十三號布達ハ廢シニ付略ス

別冊ノ通相定候條此旨布達候事

但從前ノ達指令等本則ニ牴觸ノ廉ハ總テ消滅候儀ト可相心得事

別冊

牛馬肉販賣並斃牛馬取扱營業規則

第一條 屠場ヲ取設ケ牛若クハ馬ヲ屠殺シ又ハ取扱場ヲ取設ケ斃牛馬ヲ割制セント欲スル者ハ隣地主ノ承諾ヲ得後ニ示シタル願書式ニ照準シ該場及近傍ノ景況ヲ明瞭ニ縮寫シタル縮圖面相添へ郡役所ヲ經テ本廳ニ願出免許鑑札ヲ受クベシ

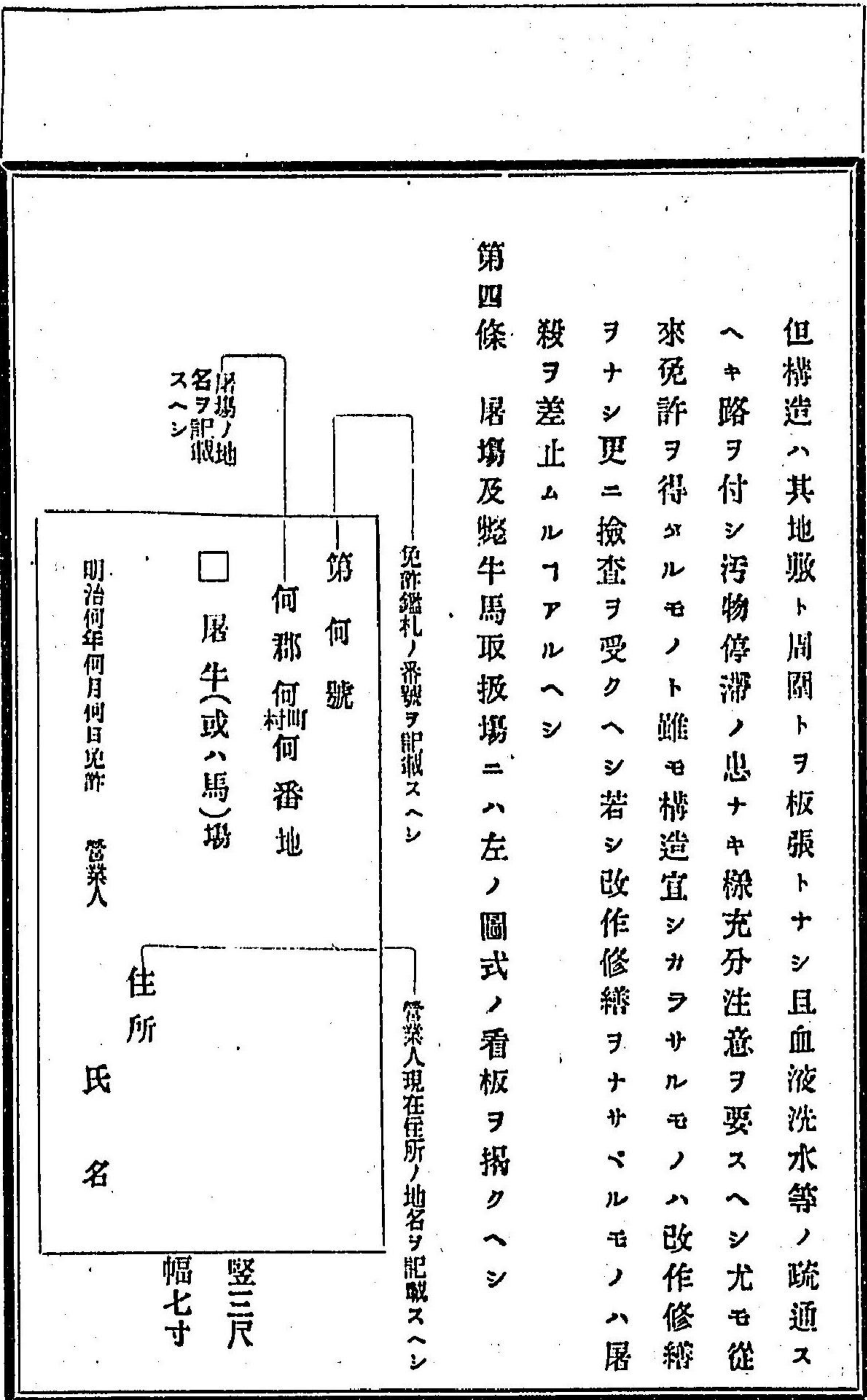
但免許鑑札ハ屠場若クハ取扱場一ヶ所毎ニ願受クヘシ

第二條 屠場並斃牛馬取扱場ハ人家遠隔ノ地ニ非レハ之ヲ設クルヲ許サス

第三條 屠場ハ構造其宜キヲ得タルモノニ非レハ之ヲ許サス故ニ落成ノ上ハ郡役所へ届出検査ヲ受クヘシ

但構造ハ其地敷ト周圍トヲ板張トナシ且血液洗水等ノ疏通スヘキ路ヲ付シ汚物停滯ノ患ナキ様充分注意ヲ要スヘシ尤モ從來免許ヲ得タルモノト雖モ構造宜シカラサルモノハ改作修繕ヲナシ更ニ検査ヲ受クヘシ若シ改作修繕ヲナササルモノハ屠殺ヲ差止ムルコトアルヘシ

第四條 屠場及斃牛馬取扱場ニハ左ノ圖式ノ看板ヲ掲グヘシ



第八百七十九
條ニ載スル十
五年一月十八
日滋賀縣甲第
十五號布達第
警罪第三條第
二項參看スヘ
シ

第五條 牛馬ヲ屠殺シ又ハ斃牛馬ヲ剖割セント欲スルキハ其都度
所管警察署又ハ分署へ届出検査ヲ受クヘシ
第六條 前條屠殺セント欲スル牛馬ハ豫メ其飼主ノ住所氏名ヲ詳
記シ検査吏員ニ差出スヘシ
第七條 検査吏員ニ於テ不健全牛馬ニシテ食用ニ堪ヘサルモノト
看認ムルキハ屠殺ヲ許サス

同前

同前

第何號

何郡何村何番地

□ 斃牛馬取扱場

住所

氏名

明治何年何月何日免許 營業人

同前

豎三尺
幅七寸

第八條 検査済ノ肉ハ検査吏員必ス左ノ烙印ヲナスヘシ

滋賀縣
検査済
牛肉

滋賀縣
検査済
馬肉

第九條 剖割シタル斃牛馬ノ肉ハ検査吏員ノ面前ニ於テ直ニ細截
シ生石灰或ハ綠礬ノ末ヲ混和シ又ハ之ニ熱湯ヲ灌クヘシ
第十條 屠場及斃牛馬取扱場ハ専ラ清潔ヲ要シ掃除洗淨ヲ怠ルヘ
カラス尤屠牛馬ノ臟腑汚穢物等ニハ成丈ケ防臭液ヲ灌キ惡臭ヲ
防止スヘシ
第十一條 屠場及斃牛馬取扱場ノ免許ヲ得タル者ト雖モ實際防害
ヲ生シ又ハ破損シテ不潔ヲ來シ改作修繕ヲ怠ルキハ廢業セシム
ルコアルヘシ
第十二條 屠場主ト相對ノ上該屠場ニ於テ牛馬ヲ屠殺セント欲ス

十三年十月十三日
 第三百三十二號
 布達ヲ以テ第十三條へ但書ヲ追加シ十五年二月二十三日同甲第三十八號布達ヲ以テ同條中(ヲ經テ本廳)ノ五字ヲ删除ス其布達ハ後ニ出

ルモノモ總テ此規則ヲ遵守スヘシ

第十三條 牛肉又ハ馬肉ヲ食用ノ爲メ小賣セント欲スルモノハ郡役所ヲ經テ本廳へ願出免許鑑札ヲ受クヘシ

第十四條 前條小賣營業ノ者ハ左ノ離形ノ看板ヲ店頭ニ掲クヘシ
 免許鑑札ノ番號ヲ記載スヘシ

第何號

□ 牛(或ハ馬)肉小賣營業

氏名

豎三尺
 巾七寸

第十五條 飲食店ニ於テ牛馬ノ生肉ヲ販賣スルモノハ必ス小賣營業免許ヲ受クヘシ
 但炮煮調理シタル肉ヲ客へ供スルハ此限ニ非スト雖モ必ス免

十五年二月二十三日
 第三百三十八號
 布達ヲ以テ第十六條中(ヲ經テ本廳)ノ五字ヲ删除ス其布達ハ後ニ出

許ヲ得タルモノヨリ買請タル肉ニ非レハ之ヲ用ツヘカラス

第十六條 食用牛馬肉ヲ出賣セント欲スルモノハ郡役所ヲ經テ本廳へ願出行商鑑札ヲ受ケ出賣ノ節ハ必ス該鑑札ヲ所持スヘシ
 但出賣ハ屠殺又ハ小賣ノ免許ヲ得タルモノニ限ルヘシ尤行商鑑札ハ幾枚ニテモ願受ルヲ得ヘシ

第十七條 食用牛馬肉小賣營業ノモノハ當該官員衛生委員又ハ巡查等臨時出張検査スルヲアルヘシ

第十八條 孕胎セル牛馬種取ノ牝牛馬及検査ヲ受ケサル牛馬ヲ屠殺スルヲ禁ス

第十九條 免許ノ場所ニ非スシテ牛馬ヲ屠殺スルヲ禁ス

第二十條 屠牛場ニ於テ馬ヲ屠殺シ屠馬場ニ於テ牛ヲ屠殺スルヲ禁ス

第二十一條 屠場ニ於テ斃牛馬ヲ剖割シ斃牛馬取扱場ニ於テ牛馬

十三年十月十三日
 第三百三十一號
 布達ヲ以テ第十八條ヲ改正ス其布達ハ後ニ出
 第八百七十九條ニ載スル十五年一月十八日海防廳甲第十五號布達並ニ警匪第二條第

ヲ屠殺スルコトヲ禁ス

第二十二條 屠牛馬營業人若クハ小賣營業人ニ於テ腐敗ニ傾キタ

ル肉斃牛馬ノ肉屠場ノ判明セサル肉等ハ勿論各種ノ肉ヲ混同シ

又ハ他肉ヲ偽リテ食用ノ爲メ販賣スルコトヲ禁ス

第二十三條 鑑札ヲ貸借シ又ハ無鑑札ニテ營業スルコトヲ禁ス

第二十四條 第十八條以下ノ件々ニ違犯スルモノハ取糺シ相當ノ

處分ニ及フヘシ

願書式

屠牛馬營業(或ハ斃牛馬)願

何郡何村何番字何々

一何地反別何反幾畝何歩

但人家ヲ距ルコト何町何間

今般右之地所ニ於テ(或ハ借受)屠場取設屠牛馬營業或ハ取扱場取設斃

牛馬割割仕度候間實地御檢査ノ上御差支モ無之候ハ、御免許被成
下度別紙屠場或ハ取扱場及近傍地ノ繪圖面相添此段奉願候也

何郡何村何番地住(或ハ寄留)

願人 氏 名 印

借地ナラハ地主署名押印スヘシ

何郡何村何番地住(或ハ寄留)

地主 氏 名 印

何郡何村何番地住(或ハ寄留)

隣地主 氏 名 印

借地主署名アルモ悉ク
署名押印ヒシムヘシ

滋賀縣令苗字名殿

前書屠場或ハ斃牛馬取扱場取設ノ義他ニ差支ノ廉無之候條奥印仕
候也

何町村 戸長

地元戸長タルヘシ

氏

名印

何町村 衛生委員

地元衛生員タルヘシ

氏

名印

鑑札雛形

屠牛馬營業鑑札

但木製

住所 氏名

表 屠馬營業

屠場地名

年號月日

裏

滋賀縣

縣

番號

牛馬肉小賣營業鑑札 但同上 牛馬肉行商鑑札 但同上

住所 氏名

表

牛馬肉小賣營業

裏面 表

牛馬肉出賣營業

裏面 表

住所 氏名

十五年二月二十三日滋賀縣
甲第三十八號
布達ヲ以テ(裏面同前)ノ
左傍へ但書ヲ
追加ス其布達
ハ後ニ出

本年甲第百九
號布達ハ前ニ
出

○明治十三年十月十三日滋賀縣甲第百三拾壹號布達
本年甲第百九號布達牛馬肉販賣并斃牛馬取扱營業規則中左ノ通第
十三條へ但書ヲ加へ第十八條改正候條此旨布達候事

第十三條 云々

但屠牛馬營業ノ免許ヲ得タルモノト雖モ検査濟烙印アル肉塊ヲ

農商工

二百七

十三年本縣甲
第百九號布達
八前二出

其儘販賣スルニ非スシテ之ヲ小截シ小賣セント欲スルモノハ亦
本條ニ據リ別ニ小賣營業免許鑑札ヲ受クベシ

第十八條 孕胎セル牛馬種取ノ牝牛馬及検査ヲ受ケサル牛馬ヲ屠
殺シ又ハ検査ヲ受ケスシヤ斃牛馬ヲ剖割スルヲ禁ス

○明治十五年二月二十三日滋賀縣甲第三拾八號布達

明治十三年^八本縣甲第百九號布達牛馬肉販賣并斃牛馬取扱營業規
則中左ノ通り刪除追加候條此旨布達候事

第十三條及第十六條中[郡役所]ノ下ヲ經テ本廳ノ五字ヲ刪除ス

牛馬肉小賣營業鑑札同行商鑑札雛形ノ下[裏面同前]ノ左傍へ但滋賀
縣ヲ滋賀縣何郡役所ニ作ルノ十五字ヲ追加ス

第七百三拾五條 牛乳搾取并請賣營業規則

○明治十三年九月十三日滋賀縣甲第百拾八號布達

十五年二月二
十三日滋賀縣
甲第三十九號
布達ヲ以テ第
二條ヲ改正ス
其布達ハ後ニ
出

牛乳搾取并請賣營業規則別冊ノ通相定候條此旨布達候事

但從前營業ノ者モ本則ニ遵ヒ更ニ願出ヘキ備ト可相心得事

別冊

牛乳搾取并請賣營業規則

第一條 乳牛ヲ畜養シ乳汁ヲ搾取販賣セント欲スルモノハ後ニ示
シタル願書式ニ準據シ寮場ノ圖面ヲ付シ郡役所ヲ經テ本廳へ願
出免許鑑札ヲ受クヘシ

但寮場ヲ轉スル節ハ本條ノ手續ニヨリ更ニ願出ツヘシ

第二條 牛乳ヲ請賣セント欲スル者ハ其搾取人ノ住所氏名ヲ記シ
郡役所ヲ經テ本廳へ願出請賣鑑札ヲ受クヘシ

第三條 寮場ハ日々掃除ヲ怠ラス惡臭ノ飛散ヲ防キ且炎熱ノ候又
ハ流行病アルニ際シテハ時々防臭液等ヲ濫キ專ラ清潔ヲ要スヘ
シ

第四條 乳汁ヲ容ル、器具ハ金屬製ノモノヲ用フヘカラス(鋳製ノニ非ス)且取扱ノ疎漏ヨリ塵埃等ヲ混入セサル様注意スヘシ

第五條 左ニ記列シタル乳汁ハ販賣スルコトヲ許サス
水又ハ他物ヲ混和シタルモノ
病牛ヨリ搾取シタルモノ
腐敗ニ傾キタルハ勿論搾取後時ヲ經テ稍其質ヲ變シタルモノ

第六條 畜牛若シ病ニ罹ラハ速ニ獸醫又ハ醫師ヲ招キ治療ヲ乞ヒ
萬一傳染病ノ徵候アリト認ムルハ直ニ衛生委員ニ届出ヘシ

第七條 當該官員衛生委員又ハ警察官吏等臨時出張祭場等ヲ検査
スルコトアルヘシ

第八條 無鑑札ニテ營業シ又ハ鑑札ヲ貸借シ又ハ許可ヲ得スシテ
祭場ヲ設ケ又ハ第五條ニ掲グル乳汁ヲ販賣スルモノハ取組シ相
等ノ處分ニ及フヘシ

願書式

牛乳搾取營業願

何郡何村何番地
一何地反別何程
今般右之地所ニ於テ(或ハ借受)乳牛畜養仕牛乳搾取營業仕度候間實
地御検査之上御差支モ無之候ハ、御免許鑑札御下渡被成下度別紙
圖面相添此段奉願候也

年號月日

何郡何村何番地住(或ハ寄留)

願人 氏 名 印

借地ナラハ地主
署名押印スヘシ

何郡何村何番地住(或ハ寄留)

地所持主 氏 名 印

滋賀縣令苗字名殿

前書之趣他ニ差支ノ筋無之候ニ付奥印仕候也

何町村戸長(榮場アル地ノ)

氏名印

同衛生委員(榮場アル地ノ)

氏名印

牛乳搾取營業鑑札

但木製

住所

氏名

表 牛乳搾取營業

榮場地名

裏

年號月日

滋賀縣

番號

牛乳請賣鑑札

但同上

十五年二月二十三日滋賀縣
甲第三十九號
布達ヲ以テ
裏面同前ノ
左傍へ但書ヲ
追加ス其布達
ハ後ニ出

十三年甲第百
十八號布達ハ
前ニ出

住所	氏名
表	牛乳請賣營業

裏面
同前

○明治十五年二月二十三日滋賀縣甲第三十九號布達
明治十三年九月甲第百拾八號布達牛乳搾取并請賣營業規則左ノ通り
改正追加候條此旨布達候事

○
第貳條 牛乳ヲ請賣セント欲スル者ハ其搾取人連署ノ書面ニ戸長
衛生委員ノ奥書調印ヲ受ケ郡役所へ願出請賣鑑札ヲ受ケヘシ
牛乳請賣鑑札雛形ノ下裏面同前ノ左傍へ但滋賀縣ヲ滋賀縣何郡

役所ニ作ルノ十五字ヲ追加ス

○第拾六款 醸造物

第七百三拾六條 酒造税則改定ニ付心得方

○明治十三年十二月十五日滋賀縣甲第百六拾號布達

本年第四十號
公布酒造税則
ハ民市成交律
類第第三編第
九十條ニ出

本年第四十號公布ヲ以テ酒造税則改正相成候ニ付テハ其筋ヨリ達
ノ次第モ有之候條營業者ニ於テハ別紙ノ通可相心得此旨布達候事
（別紙營業者心得書ハ十五年十二月十四日滋賀縣甲第百五拾三號
布達ヲ以テ全部更正ニ付略ス但甲第百五拾三號布達ハ十五年七
月以後ノ發令ニ付第
貳編ニ編入スヘシ）

第七百三拾七條 酒造家ニ於テ検査未濟酒ヲ誤テ親ヘシ廢棄ニ屬
スル節ハ届出ヘキ事

○明治十三年十一月三十日滋賀縣甲第百四拾八號布達

（本文ハ十五年十二月十四日滋賀縣甲第百五拾三號布達ヲ以テ酒
造營業者心得ヲ全部更正シタルニ付削減ス故ニ略ス但甲第百五
拾三號布達ハ十五年七月以後ノ
發令ニ付第貳編ニ編入スヘシ）

第七百三拾八條 酒類ニ藥品ヲ配伍シ販賣スル者賣藥免許證札ヲ

下付スルト酒類稅ヲ課スルトノ區別

○明治十二年三月七日滋賀縣甲第拾五號布達

(本文ハ第七百拾六條ニ出)

○明治十二年八月二十九日滋賀縣甲第百七號布達

(本文ハ第七百拾六條ニ出)

第七百三拾九條 自飲酒製造見込石數届出方

○明治十四年十二月七日滋賀縣乙第貳拾四號達郡役所長役場ハ

(本文ハ十六年二月二日滋賀縣甲第拾七號布達ヲ以テ自家用料ノ酒類製造免許願方ヲ定メタルニ付消滅ス故ニ略ス但甲第拾七號令ニ付第五年七月以後ノ發)

第七百四拾條 酒造檢査等ノ爲メ大藏省官員營業家ヘ直チニ監臨

ノ節ハ郡吏戸長等ノ出張ヲ要求スルコト之レアルノ

事

○明治十三年十二月十七日滋賀縣乙第貳拾六號達郡役所長役場ハ

本年第四十一號公布特種製造營業稅則ハ民事成文律類纂第三編第九十二條ニ出

(本文ハ第七百四拾三條ニ出)

第七百四拾壹條 替廻受賣者ニ於テ賣買シタル替廻ノ石數其他檢

査ノ事

○明治十三年十一月三十日滋賀縣甲第百四拾九號布達

本年第四拾壹號ヲ以テ替廻製造營業稅則公布相成候就テハ調査ノ都合有之ニ付右品受賣者於テハ替廻買入又ハ販賣ノ石數并其賣買者住所姓名及ヒ年月日等遺漏ナク帳簿ニ記載シ置キ毎年十月中所管郡役所ヘ差出シ檢査ヲ受クヘク此旨布達候事

第七百四拾貳條 酒造營業人員釀造石高及ヒ替廻營業人員月々増

減報告書雛形并ニ手續

○明治十三年十一月十五日滋賀縣丙第拾九號達郡役所長役場ハ

(本文ハ第七百四拾三條ニ出)

第七百四拾三條 酒類稅帳及ヒ鑑札受拂計算帳進達期限ノ事

○明治十三年十二月二十一日滋賀縣丙第八拾五號達所^役

(本文八第貳百
貳拾九條ニ出)

第七百四拾四條 酒造營業人名表及ヒ造石稅免許酒類石數表等進

達期限ノ事

○明治十三年十二月二十四日滋賀縣丙第八拾六號達所^役

(本文八第貳百
貳拾八條ニ出)

○明治十四年三月二十一日滋賀縣丙第拾六號達所^役

(本文八第貳百
貳拾八條ニ出)

第七百四拾五條 替廻販賣見込届石數表其他諸表進達期限ノ事

○明治十四年二月七日滋賀縣丙第九號達所^役

(本文八第貳百
貳拾八條ニ出)

○第拾七款 養蠶

第七百四拾六條 淡海蠶種會社蠶種取締定款并ニ申合規則

○明治十三年五月五日滋賀縣甲第五拾貳號布達

蠶種ノ儀ハ本縣下固有ノ特産ニシテ從來盛ニ販賣シ就中開港以來
該業ニ從事スルモノ年一年ニ増加セシモ去ル明治十一年蠶種製造
組合條例被廢候ニ付テハ輸出ヲ目的トセル養蠶家モ頓ニ販賣ヲ内
國ニ轉シ競賣ノ弊害ヲ醸シ詭偽百出爲メニ精粗混同シ一般養蠶家
ニ不可見ノ慘毒ヲ流シ隨テ得意ノ僥運ヲ失ヒシヨリ再ビ不可救ノ
景況ニ立至リ候處今回淺井伊香坂田三郡ノ有志者結合ノ上更ニ檢
査ノ方法ヲ設ケ精撰ノ良種ヲ造リ需用者ニ満足ヲ與ヘ併テ結社ノ
信憑ヲ保有センコトヲ謀リ別紙ノ通規則相定度旨願出候ニ付則開届
候條此旨布達候事

別紙

蠶種製造組合
條例ハ太政官
ノ布告ニ係リ
且廢止ニ付本
編之ヲ登錄セ
ス

蠶種取締定款並申合規則

淡海蠶種會社取締定款

第一條 本社ハ各自製造ノ蠶種ヲ審査評別シ以テ實利ヲ内外之養蠶家ニ供シ併セテ自家ノ盛價ヲ保有スルノ爲メ結合スルモノトス

但本社ハ有志者ノ會合スルモノニシテ同業一般ヲ檢束スルモノニ非ラズ

第二條 當會社ハ淡海蠶種會社ト名稱シ事務取扱所ハ社長ノ屋舎ヲ以之ニ充ツ

第三條 本社ノ結合ハ五ヶ年ヲ以テ一期トス故ニ社員タルモノハ右一期内ハ妄リニ脱社スルコトヲ得サルヘシ但不得止ノ事故アルモノハ集會決議ニ問ヒ之ヲ許否スベシ

第四條 本社ノ役員ト稱スルモノハ左ノ如シ

社長

壹員

副社長

壹員

検査人

五員

第五條 正副社長並検査人ハ社中一同ノ投票ヲ以之ヲ撰定スヘシ

第六條 社員ノ内最寄組合ヲ設ケ毎組申合セテ以世話役壹員充テ置雜細ノ事務ヲ扱ハシムヘシ

但此世話役ハ蠶種ノ検査ニ關與スルコトヲ得ズ

第七條 正副社長及ヒ検査人在任ハ一ヶ年ヲ期限トナシ毎二月ノ定例會ニ於テ改撰スルモノトス

但再撰ニ當ルモノ勤績スルハ勿論ナルベシ

第八條 社長ハ本社全体ノ事務ヲ總理シ役員及世話役ヲ指揮シテ其職任ヲ盡サシムルノ權ヲ有スルモノトス

但副社長ハ社長事故アルト代理スル迄ニシテ平時検査人ニ異

ナルコナシ

第九條 検査人ハ雜細ノ社務ニ干預シ且其意見ヲ陳スルノ權利アリトス

第十條 社長以下役員ノモノハ疾病又ハ故ナクシテ其任ヲ辭スルコトヲ得ス

第十一條 毎年二月八月ノ兩度社員一同集會ヲナシ事業上緊要ノ事ヲ議定スヘシ故ニ若シ社員ニシテ欠席スルモノハ他ノ社員ヘ代理ヲ委任シ該會ノ決議ヲ異議スルコトヲ得ス

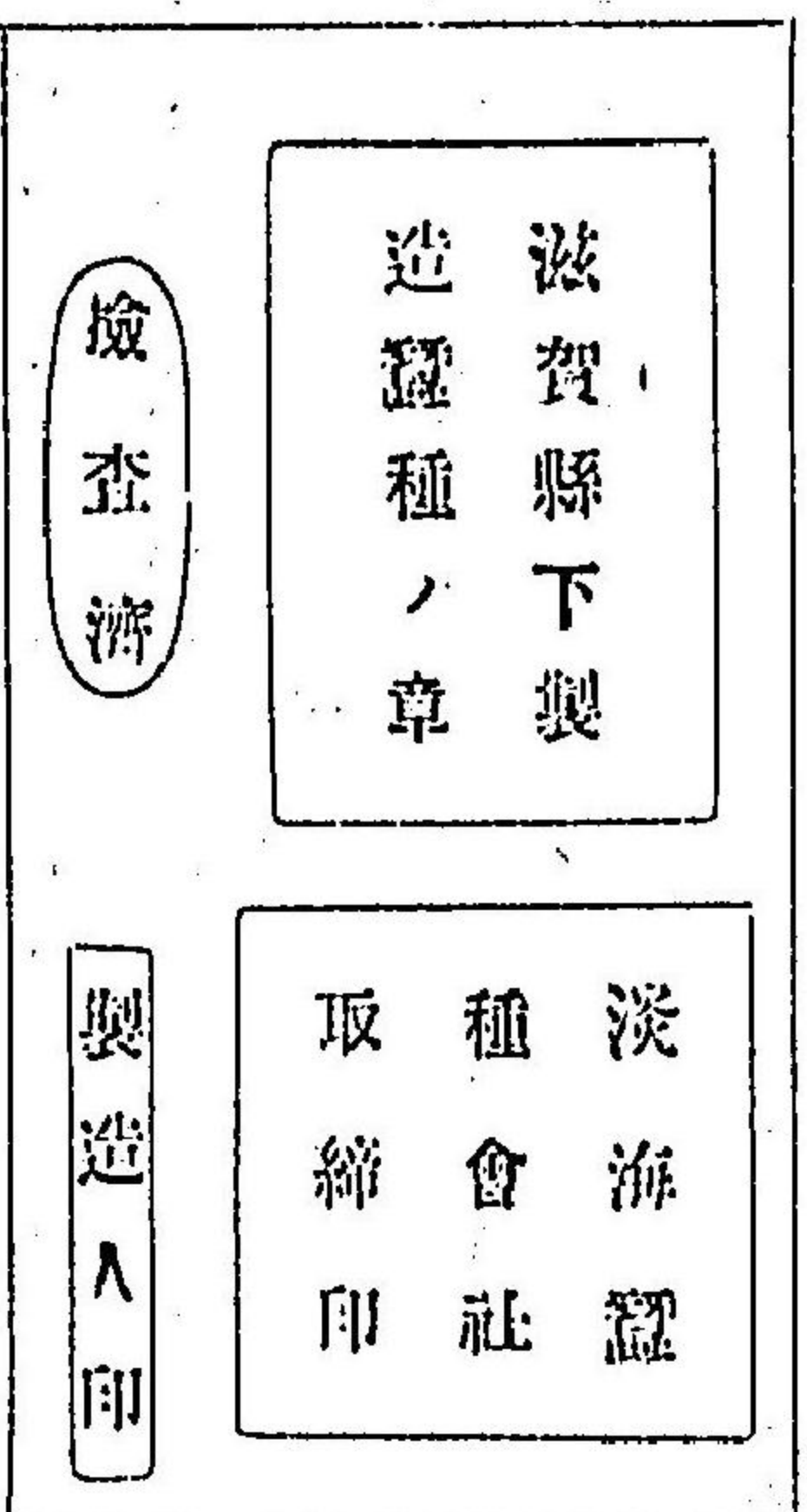
但議事ハ同意過半數ヲ以テ決スルモノトス

第十二條 本社ヘ新規ニ加入セントスルモノハ第十六條ノ手續ヲ以申入ヘシ而シテ社長已下検査人ニ於テ不都合無之者ト見認ル時ハ承允シ社中一般ヘ報告スルモノトス
但社員ノ増減ハ本縣勸業課ヘ申告スヘシ

第十三條 取締定款及申合規則共縣廳ノ認可ヲ經テ踐行スルモノナレバ若クハ之ヲ改正シ或ハ之ヲ増補スルモ都テ縣廳ノ允可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ踐行スルコトヲ得ス

第十四條 本社ハ蠶種取締ヲ爲スニ止ルモノニ由リ其蠶種ニ因リテ生スル利益及ヒ損耗ノ如キハ本社ニ關係ナキモノトス

第十五條 本社員ニ於テ製造セル蠶種ハ中書及印章押捺ノ位置左ノ如シ



第十六條 本社ニ同盟加入セント欲スル者ハ社員ノ内登人ヲ保証人トナシ左式ニ准據シ書面登通差出スヘシ

入社証

私儀今般御社へ加入蠶種製造致候ニ付テハ蠶種取締定款及申合規則等嚴重遵守可致候依之保証人連署一札差上置候也

國郡村名

明治 年 月 日 苗字名印

同

保証人苗字名印

淡海蠶種會社御中

右條々確定ノ上各姓名ヲ著シ調印致候也

各姓名ヲ著レ原本ノマ、

明治十三年 月

蠶種取締申合規則

第一條 今度結合セシ同盟者ハ信義ヲ他方ニ供シ各自ノ營業ヲ旺盛ナラシメントスルモノナレハ先以テ桑園ノ培養ニ注意シカメテ良桑ヲ以蠶料ニ充ツヘシ若或ハ所有ノ桑葉乏シク他人ヨリ購入スルアルモ肥大ノ桑葉ニアラサレハ之ヲ用ニヘカラズ

第二條 各自蠶室之結構ハ勉メテ窓ヲ穿テ專ラ大氣ノ流通ニ注意スベシ

第三條 養蠶之掃立ハ各瑣少ノ早晚アリト雖凡ソ五月上旬ヲ以發生セシメ日數三十七八日ヨリ四十日内外ヲ期シ宿繭セシムヘシ但寒温ノ計度及ヒ供桑ノ分量等ハ最モ注意スヘク且集會毎ニ各自ノ意見ヲ交陳スヘシ

第四條 蠶種ヲ善良ナラシムルハ其養蠶ノ過度ナラサルヲ緊要ト

ス故ニ蠶室ノ廣狹及ヒ人員ノ多少其他ノ用具ニ應シ其掃立ハ多クモ八歩ヨリ超過セサルヘシ

第五條 養蠶家ノ主要ハ其目的唯リ製糸ニアルヲ以テ其原種ニ於ケル專ラ母蘭ヲ精撰セサルヘカラス而シテ白蘭黃蘭及ヒ蘭之大小ニ論ナク要スルニ糸質ノ良好ナルモノヲ撰ミ尙モ蠶種購求人ノ希望ニ背カサルヘシ

第六條 各自該年製造高ハ定例集會前ニ於テ每組世話役ノモノ取調仕譯書ヲ以會社ヘ申出ヘシ

第七條 製種ノ原紙ハ同一ヲ要スルモノニ付社中申合購入ノ上原價ヲ以分配スヘシ但前年ノ殘紙ヲ用ヒ又ハ他ヨリ買收スルモノ之ヲ本社ニ申告シ其承認ヲ受ルニ於テハ妨ケナキモノトス

第八條 社印押捺中書認メ有之原紙蠶餘之分ハ會社ニ取廻メ置製年ノ用ニ供スヘシ其儘私ニ賣買シ或ハ夏蠶種ニ用ユル等堅クナ

スヘカラス

第九條 再出薄付等ノ蠶種へ糊付補裝等ノ所爲堅ク爲スヘカラス
第十條 製造印無之蠶種ハ勿論検査不相濟内ハ社中内ト雖モ賣買スルコトヲ得ス

第十一條 蠶種出來ノ上ハ各自検査場へ提出シ検査人ノ鑑定ヲ受クヘシ検査人ハ之ヲ審別検査シ以テ其精良之分ハ直ニ検査濟ノ証印ヲ押捺スルモノトス若製造不充分ト見認ムルハ検査人ハ之ヲ社長ニ申明シ而シテ全ク鹿惡品ト決スルモノハ該蠶種紙ニ押捺シ置所ノ社印ヲ消印シ以テ本社ノ保証ヲ解散スヘシ

第十二條 凡ソ製造人ハ各自製造種ノ検査ニ際シ自他ノ品位ヲ辨論シ得サルハ勿論鹿製種消印等ニ付決シテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十三條 社中ノ者若外國輸出種ヲ製造セント欲スルハ其旨本社ニ申出ヘシ然レトモ一時ノ財利ニ趨リ内國種ヲシテ明リニ外

出シ舊來ノ得意家ニ對シ欠乏ヲ告クル等ノコアルベカラス
 第十四條 凡ソ社中ノ者ト雖ハ販路ノ目的ナクシテ巨多ノ蠶種ヲ
 製造シ或ハ之ヲ濫賣シ又ハ押賣預ケ種賣等ノ所爲アルベカラス
 且社中約束外ノ代價ヲ食ルヘカラス
 第十五條 役員ノ給料ハ事務ノ繁閑ニ仍リ每定例會ノ決議ヲ以相
 當ノ日給ヲ附與スルモノトス
 第十六條 會社一切ノ費用及ヒ其他會費等ハ其費額ノ八歩ヲ蠶
 種紙數ニ賦シ貳歩ハ製造人戸數ニ割充ツベシ
 但該費ノ集收ハ每組世話役ニ於テ擔保スルモノトス
 第十七條 本社ニ於テハ一歲經營スル所ノ狀況及ヒ收蘭製種ノ買
 數賣捌キノ結果等詳細取調毎年ノ比較ヲ付シ之ヲ本縣勸業課ニ
 申告シ且ツ社中一般ニ廣告シ以テ將來ノ注意ヲ促スベシ
 第十八條 社費ノ出納ヲ明カニスルハ勿論每歲八月例會ノ節決算

書ヲ以テ告知シ社員ヲシテ一ノ疑團ナカラシムベシ
 第十九條 取締定款及ヒ申合規則ニ違背スル者アルキハ金三圓ヨ
 リ多カラス一圓ヨリ少ナカラサルノ違約金ヲ出サシメ且時宜ニ
 依リ除社スルコトアルベシ
 第二十條 前條社則ニ違背シ若違約金ヲ出サミルモノアルキハ之
 ヲ當時ノ保証人ヨリ辨收ナサシムヘシ
 右申合規則社員一同承諾ノ上共証トシテ各姓名ヲ記シ調印致置候
 也

明治十三年 日

○第拾八款 製茶

第七百四拾七條

製茶ノ備濫惡ノ品ヲ製シ國産ノ盛價ヲ落スマジ

○明治九年七月十日滋賀縣丙第五拾八號告諭

本年製茶ノ價格互市場ニ於テ格外下落相成貿易上損害不少候處世上風聞ニ印度支那等ヨリ米國へ輸入ノ製茶年々増額ニ至リ候ヨリ本邦ノ價額如斯下落相成候申唱フト雖也右等ノ空説ニ拘ラズ專ラ精良ノ物品ヲ製出セハ又盛價ノ挽回ヲモ得ヘク候へ共今日ノ如ク粗製濫惡ノ物互市場ニ相濫リ止マサレハ終ニ救フ可カラサルノ場合ニ立至リ可申然レハ本邦ノ一大損益ニ關係シ不容易備ニ有之當今米國緬育ヨリノ報告ニヨレハ中等以下ノ日本茶ハ壹斤ノ代價凡ソ拾五錢内外ノ低價ナリト近來輸出ノ中等以下ノ茶ヲ煎ズルニ葉並色合ハ可ナリニテ蒸セ臭ク或ハ日向タ臭キ氣ヲ帶ヒ香ニ堪ヘ

サルアリ或ハ無氣無味ナルモアリ其原因ヲ尋ルニ貯藏方宜シカラサルガ爲ニ非スシテ製造ノ粗ナルニヨル中等以下ノ茶際予斯ノ如クナルヲ以テ日本茶ト云ヘハ皆疑ヒテ求メサルニ至ル是實ニ下落ノ本源ナリ近頃類リニ合口ナルモノ巧ニ其時價ニ應スト蓋シ異種ノ茶ヲ混和スルハ風味ヲシテ其好ム所ニ適セシムルノ秘訣ナルヲ以テ缺クヘカラスト雖也日乾蓋ニテ少シク蒸テ日ニ乾カシ又釜ニテ仕上ケタルモノ半天其始メ宇治製ノ如クシテ日ニ乾カシ又焙シテ仕上ケタルモノ或ハ古茶ノ如キ其葉振ノ似タルモノヲ撰ンテ混和シ其價ニ應スルガ如キハ一時人ヲ欺クニ足ルモ決シテ永久ノ謀ニアラサルナリ茶ハ專ラ飲用ニ供スルモノニテ風味ヲ先ニシテ外見ヲ後ニス支那茶ノ如キハ美ナリト雖也風味惡シク我日本茶ハ之ニ反ス是レ米國人ノ我茶ヲ好ム所以ナリ而シテ今日日乾半天ノ如キ粗製ノモノヲ和シテ之ニ應スルガ如キハ後日如何ノ損害ヲ生

スルモ難計ニ付充分注意精製候様説諭ニ可及旨今般共筋ヨリ照會有之候條該營業ノ者篤ト相心得濫惡ノ品ヲ製シ國産ノ聲價ヲ落シ候等ノ儀無之様注意可致事
但製茶人所在區戸長ニ於テモ篤ト相心得精々説諭可致事
右管内該營業人及區長戸長へ無洩至急告諭スル者也

○第拾九款 製氷

第七百四拾八條 氷雪製造貯藏并販賣規則

○明治十四年十一月五日滋賀縣甲第百八拾貳號布達

明治十一年^{十一月}本縣甲第七拾六號布達製氷検査手續相廢シ氷雪製造貯藏并販賣規則別冊ノ通相定候條此旨布達候事

但本則第一條出願期限ノ儀ハ本年ニ限り十二月十日マテ延期候事

〔別冊〕

氷雪製造貯藏并販賣規則

第壹條 飲用ノ爲メ天然ノ凍氷ヲ製造セント欲スルモノハ毎年十月三十日限り人工ヲ以製造セント欲スルモノハ隨時第壹號書式ノ願書ニ製造場及近傍ノ樂況ヲ記シタル圖面ヲ添ヘ該場所在ノ郡役所ヲ經テ當廳ニ差出スベシ尤モ製造場ノ外別ニ貯藏場ヲ設

十一年本縣甲
第七十六號布
達製氷検査手
續ハ廢止ニ付
署ス

クル者ハ其旨願書ニ記載スヘシ但シ本文ノ地所官有地ナレハ別ニ地所拜借ヲ願出ヘク民有地ナレハ村總代若クハ地所持主等連署差支ナキ旨ヲ證シタル書面ヲ本文ノ願書ニ添ヘ差出スヘシ

第二條 前條願出ルキハ主務官吏ヲ派出シ實地ニ就キ検査シ不都合ナケレハ製造ヲ許可スヘシ

第三條 製造許可ノ後ト雖モ主務官吏臨時巡視シ若シ有害物ヲ混入スルカ或ハ不潔ノ製ト認ムルキハ其製造ヲ差止メ又ハ現氷ヲ投棄セシムルコトアルヘシ

第四條 許可ノ上製造セシ凍氷ヲ發賣セント欲スルキハ其期ニ至リ第二號書式ノ願書ヲ製造場所在ノ郡役所ヲ經テ當廳ニ差出シ更ニ氷質ノ検査ヲ受クヘシ但人工ヲ以製造スル者ハ最初一回本文ニ準シ検査ヲ受クルニ於テハ次回以後ハ其都度願出ルニ及ハスト雖モ時々主務官吏ヲ派出シテ試験ヲナスベシ

經サル原本ノマ、

第五條 前條氷質ノ検査ヲ願出ルキハ主務官吏ヲ派出シ實地ニ就キ或ハ現品ヲ持參セシメ試験ヲ遂ケ其質善良ニシテ無害ナル者ハ之ヲ飲料ニ供シ障害ナキ旨ヲ明記シタル試験成績告示書ヲ下付スヘシ但試験ノ上品質不良ナルモノハ其旨ヲ明記シタル試験成績告示書ヲ下付シ飲料ノ爲メニ發賣ヲ許サ、ルハ勿論時宜ニヨリ適應ノ場所ヘ投棄セシムルコトアルヘシ

第六條 天然ノ積雪又ハ他管ニ於テ製造シタル凍氷ヲ貯藏セント欲スル者ハ第一條ニ準シ初メニ貯藏場ノ検査ヲ受ケ尙發賣ノ期ニ至リ第四條ニ準シ更ニ品質ノ検査ヲ受クヘシ但他管ヨリ輸送スルモノハ其管轄廳許可ノ證ヲ差出スヘシ尤時宜ニ依リ貯藏ノ以前其品質ヲ検査スルコトアルヘシ

第七條 貯藏ノ氷雪未タ發賣検査ヲ經サル以前醫師ニ於テ患者ノ外用ニ供シ又ハ動植物貯藏ノ用ニ供スル等ノ目的ニテ賣渡シ又

ハ授與スルハ其需用セル書面等ノ證トナルヘキモノヲ添ヘ貯
藏場所所在ノ郡役所ヲ經テ當廳ニ届出ヘシ但冰雪融解スルカ又ハ
事故アリテ發賣セサルモ其旨届出ヘシ

第八條 發賣検査ヲ經タル(他府縣ノ検査ヲ經タルモ)冰雪ヲ卸小賣若クハ
行商セント欲スル者ハ第三號書式ノ願書ニ試驗成績告示書(他人
ノハ告示書ノ寫)ヲ添ヘ所管郡役所ヘ差出シ第四號雛形ノ營業鑑
札ヲ申受ケ居商ハ店頭ニ揭示シ行商ハ之ヲ携帶スベシ但甲者ノ
製造セシ冰雪ヲ販賣スル者更ニ乙者ノ製造セシ冰雪ヲ販賣セン
トスルハ其都度試驗成績告示書寫ヲ添ヘ郡役所ヘ届出ヘシ
第九條 前條許可ヲ得テ冰雪ヲ販賣スル者ハ何地製造ノ凍氷若ク
ハ積雪ト大書シタル看板ヲ居商ハ店頭行商ハ其行商具ニ揭示ス
ベシ

第十條 既ニ許可ヲ得テ販賣スルモノト雖モ賣品中有害品アルコ

ヲ發見スルハ直ニ其販賣ヲ差止メ又ハ主務官吏ヲ派出シ更ニ
試験ヲ遂ケ果シテ有害品ナルハ第五條但書ニ準シ處分スベシ

第十一條 試驗成績告示書(發賣ヲ許可セ)及營業鑑札ハ製造若クハ
貯藏セシ冰雪ヲ賣盡シ又ハ販賣ヲ止メタルトキハ速ニ返納スヘ
シ但本文告示書及鑑札ノ効力ハ下付シタル年ノ十二月三十一日
限トス

第十二條 營業鑑札ヲ貸借シ若クハ鑑札ヲ所持セスシテ冰雪ヲ飲
料ノ爲メニ販賣スルヲ許サズ

第十三條 製造若クハ貯藏ノ節検査ヲ受ケタル冰雪ト雖モ更ニ發
賣検査ヲ受ケザルモノハ飲料ノ爲メニ販賣スルヲ許サズ

第十四條 第十二條第十三條ニ違犯スルモノハ取糺シ相當處分ニ
及フベシ

第壹號

凍氷製造(凍氷或ハ積雪貯藏)願ニテ半紙
何郡何町(村)官(民)有地何山(谷)字何々ニ於テ凍氷製造(何府縣下何所ニ
於テ何某製造ノ凍氷或ハ天然ノ積雪貯藏)任度候間御検査被成下度
依テ別紙畧圖面并官地拜借願書(地所關係人連署書面)相添此段奉願
候也

住所 族 籍

年月日

氏 名印

滋賀縣令氏名殿

前書ノ通相違無之ニ付與印仕候也

戸長 (本人現住地ノ戸長)

氏 名印

戸長 (製造場若クハ貯藏場所在ノ戸
長)

氏 名印

衛生委員 (全上)

氏 名印

第二號

凍氷(積雪)發賣御検査願ニテ半紙

本年何月何日付ヲ以出願何月何日御許可相成何郡何町(村)何所ニ於
テ製造(貯藏)ノ凍氷(積雪)今般發賣仕度候間御検査被成下度此段奉願
候也

(署名與書式等第壹號式ニ準ス)

第三號

凍氷(積雪)販賣營業鑑札下渡願ニテ半紙

一凍氷(積雪)

何 程

此賣上ケ見積金何程

農商工

產地何國何郡(區)何町(村)字何々

製造(貯藏)人住所族籍

氏名

右側(小賣行商)任度候間營業鑑札御下渡被下度依テ別紙品質試驗成
續告示書相添此段奉願候也

年月日

住所族籍

本人 氏名印

全上

同業者 氏名印

全上

全上 氏名印

滋賀縣何郡長氏名殿

前書ノ通相違無之ニ付印印仕候也

第四號

營業鑑札雛形

戶長

氏名印

衛生委員

氏名印

第何號

木製

寸法

表

凍氷(積雪)御(小賣)行商營業

住所族籍

營業人 氏名

居商ハ

縦八寸

横四寸

滋賀縣

裏年月日 何郡役所

烙印

行商ハ

縱三寸五分

横二寸

○第貳拾款

牧畜及家獸

第七百四拾九條

獸類牧畜ノ儀倍々繁殖シ國益ヲ興ス様心掛クベ

キ事

○明治六年七月五日滋賀縣第六百貳拾六號布達

牛豚類人家稠密之場所ニテ牧畜不相成旨本年五月中第四百七十七號ヲ以テ及布達候處往々右御趣意ヲ誤解シ牧畜嚴禁ト相心得從前畜來候豚豕モ野外湖濱江乘候者モ有之哉ニ相聞以之外之事ニ候元來獸類牧畜之儀ハ最大一之國益ニテ必ス救荒之豫備タルヘキモノニ付各人民勉勵牧畜スベキハ兼々御趣意ニテ今般之御布告モ人家稠密之場所ニテ牧畜候テハ獸類之臭氣人身之健康ヲ害スルノミナラス近時獸類之傳染病流布シ人類江モ傳布候付人獸雜居之儀ヲ被禁止候旨ニテ人家隔絶之場所ニテ牧畜シ又ハ疎離之村落ニテ家畜之耕牛モ同様清潔ニ養候ハ最可然又ハ別ニ牧畜便宜之地ヲ撰

第四百七十七號布達ハ六年五月十五日政官第百六十三號布告ヲ管內ヘ配付スルニ止リ他事ナキニ付略ス但大政官ノ布告ハ民事成文律類纂初編第四百五十二條ニ出

今般ノ御布告ハ六年五月十五日政官第百六十三號布告ヲ指ス但前ノ檢頭參看ス

養豚候に不苦罪覚前途繁殖シ國益ヲ與シ候様可心掛候若其儀ニ付所役人村長等ヨリ彼是故障等申立候者有之候ハ、取糺屹度可及沙汰候條御趣意心得違致間敷事

右管内江無洩相達ルモノ也

第七百五拾條 大津町協救社養豚方法傳授ノ事

○明治五年壬申八月^日滋賀縣第百五拾貳號布達
此度協救社ヨリ近江國市在へ養豚方法傳授トシテ掛リノ者差出シ相弘メ度旨願出候ニ付差許候條右繁殖ノ上ハ無産無職ノ者モ自然生業ノ一助トモ可相成主意ニ付有志ノ者ハ協心同力精々注意可致就テハ右社中ノ者勸諭ノ爲メ市在巡回之節權威ケ間敷義ハ決テ無之筈ニ候得共自然強談等ノ舉動ニ及ヒ候ハ、其旨早々可申出候事
附市在家々食餘ノ捨物或ハ米麥ノ洗ヒ汁等飼料トシテ右社中ヨリ相當ノ價ヲ以テ買集メ可申猶巨細ノ義ハ右社中ノ者ト可及談

示候事

右管内へ無洩相達スル者也

○明治六年一月三十日滋賀縣第九拾貳號布達^{愛知犬上阪田淺井伊香高島ノ六郡へ}
別紙之通先般及布達置候處犬上縣合併相成候ニ付テハ右新管轄地江更ニ相達候事

右管内愛知郡犬上郡阪田郡淺井郡伊香郡高島郡へ無洩相達モノ也

^(別紙ハ前ニ載スル五年第百五拾貳號布達ナリ故ニ略ス)

第七百五拾壹條 牧場其他ニ於テ飼養ノ牛馬斃死ノ節處分方

○明治十三年九月十一日滋賀縣第百拾七號布達
牧場其他ニ於テ飼養ノ牛馬斃死^{(牛馬斃死ハ本縣第百三十九號布達第九年三分假條例ニ)スル時ハ飼主ヨリ直ニ衛生委員ニ届出可成斃牛馬取扱營業ノ者ニ付スベシ若シ飼主ニ於テ燒埋却又ハ剖割セント欲スルモノハ衛生委員ノ指圖ヲ受ケ相當ノ場所ヲ撰ミ且剖割ノ節ハ所管}

九年本縣第百三十六號布達
第九年三分假條例ハ第五百四十二條ニ出
○第七百三十四條ニ載スル
十三年八月二

十四日滋賀縣
甲第百九號布
達參看スヘシ

警察署又ハ分署へ届出臨檢ヲ受ケ其肉ハ直ニ細截シ生石灰或ハ綠
禁末ヲ混和シ又ハ之ニ熱湯ヲ灌クベシ尤飼主ニ非ル者ハ斃牛馬取
扱場ノ外ニ於テ剖割スルコトヲ許サス此旨布達候事

但埋穴ノ深サハ壹丈二尺ヨリ淺クスヘカラス

第七百五拾貳條 野犬殺除ニ付飼犬ハ必ズ飼主ノ住所氏名ヲ詳記
シタル札ヲ付ケ置クベキ事

○明治十三年七月一日滋賀縣甲第百八拾貳號布達

明治九年三月本縣甲第百四十五號及ヒ同年四月乙第五拾七號ヲ以テ飼
犬届方並ニ野犬取除キ等ノ儀及布達置候處自今飼犬ハ届出ルニ及
ハス候條必ズ飼主ノ住所氏名ヲ詳記シタル札ヲ付ケ置クベシ無札
ノ犬ハ野犬ト見做シ所管警察署ヨリ犬取ノ者ヲシテ殺除可爲致候
條札並首輪ハ成ルベク鉄或ハ銅ノ類ヲ以テ調製シ遺落セサル様可
致此旨布達候事

九年本縣甲第
百四十五號及
ヒ同年七月第
十七號布達ハ
此布達ニ依テ
消滅ニ付略ス

第七百五拾三條

縣廳ノ許可濟ト詐稱シテ犬ヲ捕殺スル者取締ノ
事

○明治七年十月四日滋賀縣第千三百七號布達

(本文ハ第八百
五十五條ニ出)

○第貳拾壹款

鳥獸獵附ノ威銃

第七百五拾四條

竹生島官林ニ群集スル鶴鷺ノ類ヲ獲狩セント欲

スル者出願方并ニ取締

○明治十四年二月七日滋賀縣丙第八號達所^{郡役}へ

當縣下近江國東淺井郡早崎村所屬竹生島官林ニ群集スル鶴鷺ノ類
ヲ獲狩致シ度者ハ左ノ箇條熟知ノ上可願出條各人民へ告示ノ爲メ
郡役所門前ニ揭示可致此旨相達候事

○

心得書

第一項

一竹生島官林ニ群集スル鶴鷺ノ類ヲ獲狩セント欲スル者ハ早崎村
戸長奥印ヲ要シ東淺井郡役所ヲ經由シ當廳へ願出ス可シ
但獵銃ヲ以テ狩ル者ハ銃獵免許ヲ請ケタル者ニ限ル可シ

十四年七月二
十八日阪田ト
東淺井ノ郡役
所ヲ合併ス

第二項

一獲狩ハ毎年貳拾名ヲ限リ其年四月ヨリ翌年三月迄ヲ一期トシテ
許可スヘシ由テ毎年獲狩セント欲スル者ハ一月ヨリ三月迄ニ願
出可シ

第三項

但免許人員二十名ニ充ツルトハ更ニ報告ス可シ

一許可シタル者ハ直ニ東淺井郡役所へ其指令書ヲ持參シ官林立入
ノ鑑札ヲ請求ス可シ

但鑑札ハ貸借ヲ許サス

第四項

一社寺境内ニ立入獲狩スルヲ許サス

第五項

一官林ノ樹木ハ勿論下柴艸ノ類ト雖モ芟伐又ハ損傷スルヲ禁ス

右之通ニ候事

第七百五拾五條

武藏國南多摩郡連光寺村外九ヶ村聖上御遊獵場ニ付銃獵禁止ノ事

○明治十五年六月二十一日滋賀縣告示第拾八號告示

神奈川縣下武藏國南多摩郡一圓並ニ同國都筑郡黒川村相摸國足柄下郡一圓

聖上御遊獵場ニ被定候ニ付テハ左記村々ニ於テ銃獵一切致禁止候旨同縣ヨリ照會有之候條此旨告示候事

南多摩郡

連光寺村

關戸村

一ノ宮村

乞田村

貝取村

大丸村

東長沼村

百村

坂濱村

都筑郡

黒川村

第七百五拾六條

獵銃免許人タリニ猥リニ發砲相成ラザル事

○明治五年壬申八月^日滋賀縣第百六拾貳號布達

(本文ハ第九百拾貳條ニ出)

○明治六年一月三十日滋賀縣第百三號布達^{愛知 犬上 坂田 淺井 伊香 高島ノ六郡へ}

(本文ハ第九百拾貳條ニ出)

第七百五拾七條

職遊獵鑑札紛失ノ節届出方

○明治十二年六月二十日滋賀縣甲第六拾五號布達第七項但書

(本文ハ第九百拾貳條ニ出)

第七百五拾八條

威銃免許取締規則

本年甲第十一號銃砲臨時免許取締規則ハ廢止ニ付略ス

○明治十一年九月二十一日滋賀縣甲第五拾三號布達
本年三月甲第十一號ヲ以銃砲臨時免許取締規則相違候儀ハ山林田野植物保護ノ爲メ有害ノ鳥獸驅逐スルノ趣意ニ候處往々實地有害ノ輕重ニ論ナク只管實彈ヲ願出ルモノ多ク自然獵銃ニ紛取等ノ弊有之候テハ不都合ニ付今般右規則相廢シ更ニ威銃免許取締規則別冊ノ通相設候尤實彈ノ儀ハ有害ノ景況不得止分ニ限り免許スル儀ニ付狽リニ實彈願出候共決シテ許可不致候條此旨布達候事

但目今免許濟ノ分ハ期限内其儘相用若シカラス

別冊

威銃免許取締規則

第一條 空砲ヲ發シ田野山林等ノ植物ヲ害スル鳥獸ヲ驅逐スルヲ威銃ト云フ其免許ヲ得ント欲スルモノハ有害ノ實況及願人住所氏名年齢並ニ用銃ノ玉目等ヲ詳記シ戸長與印ノ願書ヲ以テ縣廳

現今郡長ノ家管ニ屬スルニ付縣廳ノ二字自ラ郡役所ノ三字ニ改マル

へ差出シ免許鑑札ヲ受クベシ免許ヲ受ケス發砲スルヲ許サス

第二條 若シ空砲ヲ以テ驅逐スルノ能ハス據ナク實彈ヲ以テ殺除セント欲スルモノハ其實況ヲ詳記シ場所ヲ指定シ前條ノ手續ヲ以テ願出ヘシ實地審査ノ上相當ノ期限ヲ定メ臨時免許鑑札ヲ下付スヘシ免許ヲ受ケス實彈ヲ發スルヲ許サス但滿期ノモノハ戸長與印ノ届書ヲ以テ速カニ免許鑑札ヲ返納スヘシ

第三條 免許鑑札ハ一人一己ノ用ヲ爲スモノニ付子弟又ハ雇人等ヲシテ發砲セシメント欲スルモノハ出願ノ際其届書氏名年齢ヲ詳カクシ願書ニ連署捺印セシムヘシ調査ノ上一々免許鑑札ヲ付與スヘシ

第四條 免許鑑札所持ノモノ居所移轉スレハ該鑑札替換願出スヘシ若シ死亡スレハ速カニ返納スヘシ

第五條 免許鑑札ハ賣買又ハ貸借スルヲ許サス

十年第十一號
公布鳥獸獵規
則ハ大政官ノ
布告ニ係ル故
ニ本編之ヲ登
録セス但民事
成文律類纂初
編第四百六十
一條ニ出

- 第六條 水火盜難其他事故ニ依リ免許鑑札ヲ毀失スルキハ其事由ヲ以テ更ニ免許鑑札ヲ願受クベシ
- 第七條 空砲實彈ノ別ナク明治十年第十一號公布鳥獸獵規則第七條ニ記列シタルモノハ免許鑑札ヲ付與セサルハ勿論左ニ記列スル場所ニ於テハ實彈ヲ發スルコトヲ許サズ
- 一 市街ハ勿論衆人群聚ノ場所
 - 一 銃丸ノ達スヘキ恐レアル人家ニ向ヒタル距離ノ場所及ヒ社寺人家等ノ構内
 - 一 禁獵制札ノ場所
 - 一 一日沒ヨリ日出マテノ時間
 - 一 指定スル免許場所ノ外
- 第八條 和銃ハ玉目四匁八分以下並ニ西洋獵銃ニ限ルヘシ軍用銃ヲ用ルヲ許サズ

鑰札裏面現今
即役所ノ名印
ヲ用フ

表 中 尺 寸 規 則

第何號

威銃免許鑑札

本縣下國郡區町

何番地族

何

年某

曲尺尺寸八分

免許鑑札離形左ノ通木鑑札

明治年月日免許

滋賀縣

印燒

第九條 發砲ノ爲メ山野ニ出ルキハ必ス免許鑑札ヲ携帯スヘシ若シ鑑札ヲ看ント請フ者アルキハ直ニ之ヲ示スヘシ

第十條 此規則中第一條第二條第五條第七條第八條ニ違犯ノモノハ取糺ノ上相當ノ處分ニ及フベシ

第何號

全 威銃實彈免許鑑札

本縣下國郡區町村

何番地族

何

年某

全

從明治何年何月何日
至明治何年何月何日

滋賀縣

印燒

○第貳拾貳款 捕魚採藻浚泥
第七百五十九條 湖川魚漁採藻等ノ規則

○明治十二年七月一日滋賀縣甲第七拾四號布達
管内湖川魚漁採藻規則今般別冊ノ通改定本年七月一日ヨリ施行候
條此旨布達候事

但從前當縣布達又ハ指令等此ノ規則ニ抵觸スルモノハ凡テ消滅
候儀、可相心得事

別冊

湖川魚漁採藻規則

第一條 第一節總則

一凡ソ湖川(密狭國三方湖魚漁ハ沿海魚漁ニ)ニ於テ魚漁採藻ノ業ヲ
營マント欲スルモノハ都テ此規則ニ據リ郡役所ハ願出テ免許ヲ
受クハシ

十四年十二月
十四日滋賀縣
甲第七百九號
布達ヲ以テ第
一條ヲ改正ス
其布達ハ後ニ
出

但營業ヲ免許スルトハ各其種類ニ應シ鑿札ヲ下渡スヘシ
第二條

一湖川魚漁採藻ノ業ヲ二類ニ分テ其第一類ヲ共稼ノ部トシ其第二
類ヲ專稼ノ部トス

第三條 第二節共稼

一第一類即チ共稼ニ係ル營業ヲ五種トス其目及稅額左ノ如シ

但稅金ハ其年六月以前ニ免許ヲ受タルモノハ一ケ年分ヲ納メ

七月以後ニ免許ヲ受タルモノハ半ケ年分ヲ納ムヘシ又其年六

月以前ニ廢業スルモノハ半ケ年分ヲ納メ七月以後ニ廢業スル

モノハ一ケ年分ヲ納ムヘシ

第一種

○大網

○中網

一ケ年稅金拾圓

一ケ年稅金八圓

十二年八月五日滋賀縣成第八百十九號達ヲ以テ附令アリ警察スヘシ其達ハ後ニ出

十四年十二月十四日滋賀縣甲第二百九號布達ヲ以テ第

三條中改正共布達ハ後ニ出

第二種

○魴網

○葎卷網

○小糸網

○根摺網

○胴引網

○モロコ網

○待網

○岩付網

○大流シ網

以上共ニ一ケ年稅金三圓

第三種

○箒漁

○竹筒漁

○蛭取

○釣漁

○タツベ漁

○流網

以上蛭取漁ヲ除キ共ニ一八分一ケ年稅金一圓宛蛭取漁同上稅金七拾五錢

農商工

第四種

- 投網
- 夜網
- 只曳網
- 受網
- サテ網
- 鱒漁
- 打網
- 四ツ手網
- 押網
- カチ網
- コブリ網

以上共ニ一ケ年税金五十錢

第五種

- 藻採
- 一人分一ケ年税金五十錢

第四條

一 共稼ノ免許ヲ受ケタルモノハ一般湖上ニ於テハ自由ニ營業スル

藻採原本ノマ

ヲ得ヘント雖モ他ノ專稼免許ノ區域内及ヒ各種網漁業中ノ目標内ニ入ルヘカラサルハ勿論タルヘシ

但内湖及入江等ハ第十四條ノ如ク其沿付町村ヘ專ラニセシムルモノニ付一般自由ノ限ニ非ス

第五條

一 共稼ハ免許ノ期限並ニ營業ノ定季ナシ故ニ一年中何時願出ツルモ妨ケナシ然レモ採藻泥ハ魚苗養成ノ爲メニ關係少カラサルヲ以テ毎年六月一日ヨリ七月三十日迄ノ間ハ其營業ヲ禁スルモノトス

第六條

一 共稼營業ヲ廢停スルモノハ速ニ届出整札ヲ返納スヘシ

第七條

一 大中網ヲ始メ其他都テ沖引ヲナス網漁ハ諸船航路ノ線ニ於テ通

行ノ妨ヲナスヘカラス

第八條 第三節 専稼

一 第二類即チ専稼ニ係ル營業ノ二種トス其目及税額左ノ如シ

第一種

○築

該業ノ税額ハ漁場ノ景況ニヨリ一様ナラサルヲ以テ各川ニ獲ル處ノ利益ヲ計リ相當ノ高ヲ極ルモノトス

第二種

○漬柴 方六尺ヲ一坪トス

一坪ニ付一ヶ年税金二十錢

第九條

一 専稼第一種ニ属スル營業即チ築漁ハ隔年ニ之ヲ許スモノトス而シテ其免許ヲナシタル年ハ春秋共ニ一ヶ所ニ付該川長サ百間以内

十二年八月一日滋賀縣及第八百四號通ヲ以テ賦流ニ付附合アリ其速ハ後ニ出○十五年五月二十日滋賀縣甲第百三號布達但シテ以テ築漁ニ付附合アリ其速ハ後ニ出○七十六一號ニ出

○十二年七月二十五日滋賀縣甲第九十一號布達ヲ以テ築漁隔年免許ノ川名ヲ定ム其布達ハ第七百六十條ニ出

二十間以上ヲ専稼セシムヘシ尤モ實地ノ景況ニヨリテハ此制限ニ拘ハラズ増減スルコトモアルヘシ

但 専稼免許ノ區域ハ標杭ヲ設ケ判明ナラシムルヲ要ス

第十條

一 専稼第二種ニ属スル營業ハ其物件ノ爲メニ要スル丈ケノ水面ヲ専稼セシムルモノトス

第十一條

一 専稼ハ都テ毎年春秋ノ二季ヲ限リ營業ヲ免許スルモノトス仍テ此免許ヲ受ケント欲スルモノハ其年二月中ニ願出ツヘシ

第十二條

一 専稼ハ其營業人ノ都合ニヨリ一ヶ年中若干時間ヲ停休スルコトアルモ税金ヲ減却スルコトナシ

但 第十九條ノ場合ニ於テハ本文ノ限ニアラス第三條其稼納税

ノ例ニ準シ或ハ全ク免除スルコトアルヘシ

第十三條

一 専祿免許證札ハ翌年一月三十一日限り之ヲ返納スヘシ

第十四條

第四節内湖入江ノ特制
附地元ノ權利

一 内湖及入江等ハ其浴付スル町村ニ於テ免許ヲ受ケタル營業人之ヲ專ニスルヲ得ヘシ

但外湖ト雖_レ第二類ニ係ル營業ハ其地元ノ人民ハ他ノ衆ニ先
チテ免許ヲ受クルヲ得ヘシ然_レモ築漁ノ如キハ相當ノ税金ヲ
納ムルヲ欲セサルニ於テハ更ニ他ノ人民ニ許スヘシ且ツ又其
場所ニケ村已上立會或ハ境界等ニ係リ互ニ漁業ヲ競争スルノ
場合ニ於テハ入札ヲ要用ナリト見認ムル_レハ其浴付町村中ノ
志留者ヲシテ入札セシメ税金ノ最モ多キモノニ許可スルコトモ
アルヘシ

第十五條

第五節
納税期限

一 第一類第二類共ニ營業免許ノ節第一條但書ノ通鑑札ヲ下渡スベ
キニ付其節該期ノ税金ヲ直ニ納ムベシ

第十六條

一 魚漁採藻税ハ都テ七月ヨリ六月迄ノ分ハ一月三十一日限 納付
スベシ

第十七條

第六節願書式

一 第一條ノ通營業ノ免許ヲ願出ツルトキハ別紙書式ニ準シ書面ヲ
差出スベシ

第十八條

第七節追加

一 一時遊戯ノ爲メニ第一類中第三種第四種等ノ小漁ヲナスモノハ
如キハ此規則ノ限リニアラス

第十九條

何郡長苗字名殿

(戸長與印定式ノ通)

○明治十四年十二月十四日滋賀縣甲第貳百九號布達

去明治十二年七月甲第七拾四號ヲ以テ管内湖川魚漁採藻規則及布達

置候處本年通常縣會ノ議決ニ由リ其筋ノ裁可ヲ受ケ該則第一條第

三條第九條左ノ通改補シ來十五年一月一日ヨリ施行候條此旨布達

候事

但規則第五條中採藻泥云々以下縣會ニ於テ削除ノ議決ハ採用不

相成義ト心得ベシ

○

第一條

一凡ソ湖川ニ於テ魚漁採藻ノ業ヲ營セント欲スルモノハ都テ此規

則ニ據リ郡役所ヘ願出免許ヲ受ク可シ

十二年甲第七
十四號布達ハ
前二出

第七百六十一
條ニ載スル十
五年五月二十
日滋賀縣甲第

百三號布達參
看スベシ

大綱中綱原本
ノマ、

但シ營業ヲ免許スルハ各其種類ニ應シ鑑札ヲ下渡スヘシ尤
モ改名代換轉居等ヲ爲スモノハ其際速ニ届出鑑札書換ヲ請フ
ヘシ

第三條

第一種

大綱 一ヶ年税金拾三圓

中綱 一ヶ年税金拾 圓

第二種

鮎網 何々

以上共ニ一ヶ年税金三圓五拾錢

第三種

籾漁 何々

以上共ニ一ヶ年税金壹圓

農商工

第四種

投網 何々

以上共ニ一ヶ年税金七拾五錢

第五種

採藻 採泥モ之ニ属ス

一人分一ヶ年税金七拾五錢

第九條

一專稼第一種ニ属スル營業即チ築漁ハ隔年ニ之ヲ許スモノトス(但シ勢田川築漁ハ隔年ノ限リニアラス)而シテ其免許ヲナシタル年ハ以下原則ノ通り

○明治十二年八月一日滋賀縣戊第八百四號達所^役

漁漁之義ハ來ル十六年限リ停止スヘキモノニ付湖川漁魚ノ規則外ニ付シ置候得共右年限中諸般取扱ノ儀ハ總テ該則專稼ノ部ニ可致

湖川漁魚ノ規則ハ前ニ出

本年甲第七十四號布達ハ前ニ出

照查此旨相達候事

○明治十二年八月五日滋賀縣戊第八百拾九號達所^役

本年甲第七拾四號ヲ以及布達候湖川魚漁採藻規則ノ内免許種目ノ義ハ湖川普通ノ漁稼ニ過サルニ付其一方限種々ノ名稱ヲ以所用セル所ノ漁具ハ總而本則共稼ノ種類ニ比擬シ適宜可致免許此旨相達候事

○明治十五年五月二十日滋賀縣甲第百三號布達但昔

(本文ハ第七百六拾五條ニ出)

第七百六拾條 築漁場アル各川隔年免許表

○明治十二年七月二十五日滋賀縣甲第九拾號布達

本年本縣甲第七十四號ヲ以テ湖川魚漁採藻規則及布達候ニ付テハ該則第九條築漁隔年免許ノ儀ハ別表ノ通相定候條此旨布達候事

別表

本年本縣甲第七十四號布達ハ第七百五十九條ニ出

築漁場アル各川隔年免許表

川ノ位置	明治十二年	明治十三年	以下毎年做之
滋賀	和邇川	野洲川	
全上	眞野川	賀横田川	
栗太	勢田川	犬上川	
野洲	仁保川	全上川	
神崎	愛知川	阪田川	
愛知	宇會川	淺井川	
犬上	芥川	伊香川	
東淺井	姊川	高島川	
西淺井	大川	全上川	
高島	石田川	野洲川	
高島	鴨川	童子川	

第七百六拾壹條 湖川魚漁遞減法ヲ定メテホヤト稱スル漁業禁止ノ事

十二年八月二十三日滋賀縣甲第百五號布達及十五年五月二十日同甲第百三號布達ヲ以テ附令アリ參府スベシ其布達ハ後ニ出

○明治十二年七月八日滋賀縣甲第七拾五號布達
管内湖川魚漁ノ儀ハ魚漁中實ニ酷密ヲ極ムルモノニシテ大ニ魚苗ノ養成ヲ害シ前途漁業ノ爲メニ甚キ凶歉ヲ來スヘキ兆效有之ニ付明治十六年限一般禁止ノ積ヲ以テ本年秋魚ヨリ左ノ遞減法ヲ行ヒ此割合ヲ以テ可差許候條此旨布達候事
但從前ヲホヤト稱スル漁業モ大ニ魚苗ヲ害スルモノニ付本年限リ禁止候事

○ 魚漁遞減法

一明治十二年秋魚ニ於テ同年春魚間數ノ四分一ヲ減シ其秋魚ノ間數ヲ五分シテ同十三年ノ間數ニ於テ其一分ヲ減シ翌年ヨリ每一

年其一分宛ヲ減シ六ヶ年目ニ至リ全ク之ヲ止ム例左表ノ如シ

年次	明治十二年	同	同	同	同	同	同	同	同
間數	二百間	百五十間	百二十間	九十間	六十間	三十間	止		
季節	秋	秋	秋	秋	秋	秋	秋	秋	秋

○明治十二年八月二十二日滋賀縣甲第百五號布達

管内湖川魚漁ノ儀ハ本縣甲第七十五號ヲ以及布達置候通逐年ニ遞減可致ニ付テハ以來該免許ノ間數ハ臨時可爲致檢分候條心得違ノ者無之様可致此旨近江國^{甲賀郡}除クヘ布達候事

○明治十五年五月二十日滋賀縣甲第百三號布達

明治十二年^{七月}本縣甲第七十五號ヲ以魚漁遞減法ノ儀ニ付及布達置候處往々遞減ヲ實行セサルノミナラヌ却テ竊ニ間數ヲ延長シテ打建候者等有之趣相聞一般取締上不都合ニ候條自今右等ノ者ハ出張検査官ヨリ其過問數ノ取拂ヲ命シ尙其命ニ應セサル者若シクハ取

本縣甲第七十五號布達ハ前ニ出

十二年本縣甲第七十五號布達ハ前ニ出

十二年甲第七十四號布達ハ第七百五十九條ニ出同甲第七十五號布達ハ第七百六十一條ニ出○十五年三月二十三日滋賀縣丙第二十號布達及同甲四月一日同日第二十一號布達ヲ以テ附合アリ其違ハ後ニ出

拂ヲ遷延候者等有之節ハ検査官ニ於テ直ニ取拂ノ手續ヲナシ右ニ要スル費用ハ都テ本人ヨリ辨償セシムヘシ此旨布達候事

但無免許稼業ノ者ハ勿論築漁モ本條同様可心得事

第七百六拾貳條 魚苗流放等ノ爲メ母魚ヲ要スルモノハ築漁特許ノ事

○明治十四年十二月十四日滋賀縣甲第貳百拾號布達

去明治十二年^{七月}甲第七拾四號同七拾五號ヲ以テ築漁隔年免許並ニ魚漁遞減法及布達置候處近來水産保護ノ術精進歩ノ兆相顯レ候ニ付テハ自今魚苗ヲ流放スルカ又ハ移植蕃殖ノ爲メ母魚ヲ要スルモノハ其方法及目的ニ由リ前布達ニ拘ハラズ築漁共特別免許スルアルヘシ此旨布達候事

○明治十五年三月二十三日滋賀縣丙第貳拾號^{郡役所}布達

水産保護ノ爲メ明治十二年^{七月}本縣甲第七十四號同七十五號ヲ以テ

十二年本縣甲
第七十四號布
達ハ第七百五
十九條ニ出向
里第七十五號
布達ハ第七百
六十一條ニ出
○客年中第二
百十號布達ハ
前ニ出

十四年本縣甲
第二百十號布
達ハ前ニ出

築漁隔年並似漁遞減法等相定メ且客年^{十二}甲第二百十號ヲ以テ魚
苗播殖ノ爲メ母魚ヲ要スル者ハ其方法目的ニヨリ似築特許云々ノ
儀及布達候ニ付テハ魚苗放流其他ノ方法ヲ設ケ特許願出候向モ不
妙然ルニ近來竊ニ似ノ間敷ヲ増加シ或ハ差許無之築費ヲ打建候者
モ有之哉ニ相聞其以不都合ノ次第ニ付自今一層注意シ嚴重檢査ヲ
遂ケ水産保護ノ實行届キ候様可致此旨相達候事
但待網建網等ノ名義ヲ以テ似類似ノ漁業ヲ營候者モ有之哉ニ候
得共似ノ形ヲナスモノハ都テ似ニ準シ處分可致事
○明治十五年四月一日滋賀縣丙第貳拾壹號達^{郡役}
明治十四年^{十二}本縣甲第二百拾號布達ニヨリ似築特別免許セシ分
ノ税額近傍ノ比準並ニ利益等詳細取調相當ノ見込相立可伺出此旨
相達候事
第七百六拾三條 鮎漁等營業ノ者水路ノ障礙ヲ爲シ植物ヲ荒ス等

ノ所業相成ザル事

○明治十二年九月十一日滋賀縣甲第百拾九號布達
鮎漁等營業ノ者捕魚ノ爲メ猥ニ羨惡水路ヲ掘穿テ水路ノ障礙ヲナ
シ或ハ水田等へ立入植物ヲ荒ス等ノ所業往々有之趣相聞以ノ外ノ
儀ニ付以來ハ右様ノ所業決シテ不相成候條此旨布達候事
第七百六拾四條 魚毒ヲ流シ魚ヲ漁スル儀差停ノ事

○明治六年七月二十四日滋賀縣第六百九拾號布達
從來諸川或ハ井溝等江種々之魚毒ヲ流シ魚漁致シ候惡習有之趣右
死魚并流水ヲ飲食致シ候テハ人身ヲ害シ候様ニ付決而不相成儀ニ
候條心得違致間敷若シ右等之者見當リ候得ハ早速取押江可届出候
事^{第八百七拾九條ニ載スル十五年一月十八日滋賀縣甲}
^{第拾五號布達並第貳拾三條第參項參看スヘシ}
右管内ニ相達スル者也

第七百六拾五條 蒲生郡沖ノ島村魚漁ニ付湖上借區々域

治罪法第百二
條傍江依テ取
押スノ三字消
滅ス

七年當縣第千四百二十一號
布達八第七百五十九條ニ取
スル十二年七
月一日滋賀縣
甲第七十四號
布達ヲ以テ改
定ニ付略ス○
十二年七月八
日滋賀縣甲第
七十六號布達
ヲ以テ附令テ
リ其布達ハ後
ニ出

○明治八年一月十四日滋賀縣第三拾九號布達
蒲生郡第七區沖之島村ニ別紙之通相達候條得其意去明治七年十一月
當縣第千四百廿一號布達中第三類借區規則箇條之通確守可致候事
右管内ニ無洩布達スルモノ也

別紙

蒲生郡第七區

沖之島村

一北之方ハ伊崎ヨリ明神崎ヲ見通シ南之方ハ松ヶ崎ヨリ仁保川先
ヲ經テ木戸村ヲ見通シ南北之區域トス
一西之方ハ湖水之中央限リ東之方ハ奥之島官山波打際ヲ東西之區
域トス

右之通借區差許候事

明治八年一月五日

滋賀縣令松田道之

本年甲第七十
四號布達ハ第
七百五十九條
ニ出○八年當
縣第三十九號
布達ハ前ニ出

本年第六百六
十三號布達ハ
清減ニ付略ス

○明治十二年七月八日滋賀縣甲第七拾六號布達
本年甲第七十四號ヲ以テ湖川魚漁採藻規則改定ノ儀及布達候ニ付
テ、蒲生郡沖ノ島村魚漁ノ儀ハ去明治八年當縣第三十九號ヲ以テ
及布達候通更ニ借區差許候條此旨布達候事

第七百六拾六條

似築井ニ大中網等通船ノ障得ナキ様而締ノ事

○明治九年四月十三日滋賀縣丙第三拾六號布達沿湖

(木文ハ第四百
貳拾八條ニ出)

第七百六拾七條

蒲生郡豐浦村地先ハ藻草取ニ立入マシキ事

○明治六年九月二日滋賀縣第八百拾五號達蒲生郡
本年第六百六拾三號ヲ以テ藻草取之儀及布達候上ハ各村地先十
間以外ハ勝手ニ可相稼ハ勿論ニ候處蒲生郡豐浦村地先同村高内ト
唱ヘ候箇所ハ即今詮議之筋有之候付追テ及沙汰候迄立入申聞敷事
右管内蒲生郡豐浦村須田村常樂寺村香ノ庄村淺小井村神崎郡伊庭

村能登川安樂寺須田江無洩相達スル者也

第七百六拾八條 蒲生郡常樂寺村及ヒ八幡新田地先入江へ藻草取

ニ立入マシキ事

○明治六年九月二十三日滋賀縣第八百八拾八號布達蒲生郡内へ

本年第六百六拾三號ヲ以テ及布達候藻草取之儀免許鑑札ヲ受ケ候

上ハ各村地先拾間以外ハ勝手ニ可相稜處蒲生郡常樂寺村并ニ八幡

新田地先入江之儀ハ即今詮議之筋有之ニ付追テ及沙汰候迄ハ他村

ヨリ藻草取ニ立入申間敷候事

右管内蒲生郡下豊浦村淺小井村白部村北ノ庄村丸山村香ノ庄村江

無洩相達スル者也

本年第六百六十三號布達ハ消滅ニ付略ス

○第七百六拾三條 荷積諸車牛馬及人乘車馬駕籠

第七百六拾九條 車稅規則施行手續

○明治八年五月二十四日滋賀縣甲第拾八號布達

太政官本年第二十七號即チ當縣第二百十八號ヲ以テ及布達候通本

年一月一日ヨリ車稅規則施行相成候ニ付テハ別紙手續ノ通相心得

納稅可致候事

右管内諸車所持人及ヒ區長戶長ニ無洩布達スル者也

別紙

第一條

一各人民ニ於テ諸車新調候節ハ其都度戶長へ届出檢印可申受萬一

不届ニテ相用候節ハ規則第六則ノ通ニ付屹度可相心得尤解破ノ

節ニ其都度戶長へ可届出候事

但本年ノ儀ハ從來所持ノ分ニテ檢印無之分ハ勿論檢印有之分

當縣第二百十八號布達ハ八年二月二十日太政官第二十七號布告車稅規則ヲ管内ヘ配付スルニ止リ他事ナキニ付略ス但車稅規則ハ民事成文律類纂初編第四百四十五條ニ出 第七百七十三條ニ載スル十二年六月四日滋賀縣内第九十五號達參看スヘシ○規則ハ車稅規則ヲ指ス

雖本本文新調之手續ヲ以可届出事

第二條

一 戶長ニ於テハ各人民ヨリ諸車新調届出候節ハ豫テ大帳仕立借車之種類新調年月名前等詳細登記シ然ル上檢印可打渡尤解破届出候節ハ右大帳ニ何年何月破解之譯ヲ登記シ可備後繼候事

但本年ノ儲ハ従前所持之分ニテ檢印之有無ニ不拘都テ本文新調之手續ヲ以更ニ檢印可打渡候事

第三條

一 毎年一月十五日七月十五日迄ニ車所持人ヨリ税金戶長ヘ可差出戶長ニ於テハ豫テ備付處之大帳ニ突合シ規則之通税金取立一町村限第七條第一號離形之通仕譯書相添上納方不差支捺稅納季節ヨリ十日乃至十數日前ニ區長手元ヘ可差出候事

第四條

十二年七月二十三日滋賀縣
甲第八十八號
布邊國稅金上
納順序ニ依テ
第三條消滅ス
其布邊ハ第二
百二條ニ出

十二年七月二十三日滋賀縣
甲第八十八號
布邊國稅金上
納順序ニ依テ
第四條消滅ス
其布邊ハ第二
百二條ニ出

一 區長ニ於テハ其區内各町村戶長ヨリ前條之手續ヲ以差出シ候節ハ點檢之上仕譯書ハ區長役場ニ留置一區内税金取經メ第七條第二號離形之通上納仕譯書相添一月三十一日七月三十一日迄ニ無延滞縣廳ヘ納付可致候事

第五條

一 各人民ヨリ税金差出シ候節ハ兼テ製シ有之上納金數判取帳ヘ戶長之受取証印可取置戶長ヨリ區長ヘ差出シ候節ハ區長ヨリ預リ証可相渡候事

第六條

一 荷積車之内耕作一途ニ相用ヒ決シテ他ニ使用セサル分ニ限り新調候節ハ其都度區長戶長與印ヲ以縣廳ヘ可届出取調之上車稅免除之檢印(免除)ヲ可打渡候條新調届出候節假板持參可致候事
但本年之儀ハ従前相用候荷積車之内耕作一途ニ相用候分有之

車印ノ事務
 現今課長ノ家
 管ニ屬ス〇八
 年三月二十四
 年大蔵省七第
 四十號達ニ
 依テ(免額)ハ
 (免額)ト改メ
 但共達ハ氏
 申成文律類纂
 初編第四百四
 十五條三出
 十二年七月二
 十三日滋賀縣
 甲第八十八號
 布達國稅金上
 納順序ニ依テ
 第七條消滅ス
 其亦達ハ第二
 百二條三出

候ハ、本文新調之手續ヲ以至急可届出候事

第七條

一、税金仕譯書雛形左之通候事

第一號

税金上納仕譯書

一金何拾圓

諸車税金

内

金何圓

何々車何輛

金何圓

何々車何輛

同

同

以下做之

右ハ當町明治何年後半季分諸車税金上納方御取計有之度候也

何郡第何區何村

副戸長

何 某 印

戸長

何 某 印

年 月 日

第二號

諸車税金上納仕譯書

一金何百何拾圓

内

金何拾圓

何々車何輛

金何拾何圓

何々車何輛

同

同

以下做之

農商工

右ハ當區明治何年前後半季分諸車税金上納仕候以上

何郡第何區

副區長

年
月
日

何 某 印

區 長

何 某 印

滋賀縣權令 苗字名殿

右之通可相心得候事

滋賀縣權令籠手田安定代理

明治八年
五月二十四日

滋賀縣權參事酒井 明

第七百七拾條 諸車製作定規

○明治十三年五月二十八日滋賀縣甲第六拾號布達

明治十年十二本縣甲第百五拾五號布達諸車製作定規左ノ通更正候

十年本縣甲第
百五十五號布

諸ハ消滅ニ付
界ス

條此旨布達候事

但從前諸達類此布達ニ矛盾ノ條款ハ總テ消滅候儀ト可相心得事

○ 諸車製作定規

自今本縣下使用ノ諸車新製ノ分ハナルヘク左ノ定規寸法ニ倣ヒ製
スヘキモノトス

諸車寸法 但曲尺

車輪齒 厚壹寸三分

馬車 車輪卷鉄 巾壹寸三分

車胴木穴裏ニテ内法差渡壹寸貳分

車輪齒 厚壹寸

人力二人乘 車輪卷鉄 巾壹寸

腰掛箱横巾内法貳尺四寸五分

農商工

人力一人乘

車輪齒 厚八分

車輪卷鉄 厚二分

腰掛箱横巾内法壹尺七寸

車輪齒 厚貳寸五分

車輪卷鉄 厚三分五分

車胴木穴裏ニテ内法差渡三寸五分

車輪齒 厚四寸五分

車輪卷鉄 厚四分五分

車胴木穴裏ニテ内法差渡貳寸五分

車輪齒 厚貳寸

車輪卷鉄 厚三分

車胴木穴裏ニテ内法差渡貳寸五分

車輪齒 厚三寸五分

地車

牛車

木口切牛車

木口切車

車輪卷鉄 厚三分五分

車胴木穴裏ニテ内法差渡壹寸八分

車輪齒 厚貳寸

車輪卷鉄 厚三分

車胴木穴裏ニテ内法差渡貳寸

車輪齒 厚壹寸

車輪卷鉄 厚二分五分

車胴木穴裏ニテ内法差渡八分

荷臺長 九尺以内

荷臺長 十四尺以内

但腕木トモ

荷臺長 九尺以内

木口切牛車

牛車

諸荷積車

獨用車

輕運車

一前記ノ通諸車製作定規相定ムルニ就テハ従前使用ノ不定規車ト

雖モ荷臺ハ必定期ニ準シ改ムヘシ尤道路修築ノ都合ニ依テハ特
 ニ不定期車ニ限リ運轉ヲ差止ルイモアルヘシ
 一 諸車ヲシテ定規ト不規則トヲ區分シ烙印木札ヲ交付候條各車所
 有者ニ於テハ該車ヘ釘付シ置クモノトス
 一 他管ニ於テ製作ノ車ト雖モ本縣車籍ニ編入スルトハ總テ前條ノ
 烙印木札ヲ請フヘシ
 一 烙印木札ヲ失却スルトハ速ニ再渡ヲ請フヘシ
 第七百七拾壹條 諸車製作定規等制定ニ付取扱心得
 ○明治十年十二月二十一日滋賀縣丙第貳百三拾七號達區長、戸
 令般當縣甲第百五十五號ヲ以テ諸車製作方及ヒ縣稅賦課規則及布
 達候ニ付テハ別紙ノ通取扱心得書相達候條取扱上區々不相成様可
 致此旨相達候事
 別紙

常縣甲第百五十五號布達ハ
 第七百七十條
 二載スル十三
 年五月二十八
 日滋賀縣甲第
 六十號布達及
 ヒ第百九十二
 條ニ載スル十
 二年六月二日
 同甲第四十六

號布達ニ依テ
 消滅ニ付零ス

第七百七十三
 條ニ載スル十
 二年六月四日
 滋賀縣丙第九
 十五號達ニ依
 テ第一條中及
 ヒ第二條中改
 マル
 車稅規則ハ大
 政官ノ布告ニ
 係ル故ニ之ヲ
 登錄セス但民
 事成文律類纂
 初編第四百四
 十五條ニ出

十二年五月十
 六日滋賀縣甲

諸車製作定規及ヒ縣稅賦課規則取扱心得書

第一條

一定規車不規則車烙印木札凡積ヲ以一區限區長ヨリ受取方可申出
 事

第二條

一 諸車新調届出候節ハ車稅規則第二則ノ檢印手續ヲ爲シタル後製
 作定規第一條ニ準シ調査ヲナシ豫テ縣廳ヨリ受取リ置タル烙印
 木札番烙印圖ノ如ク各車ニ就テノ車名ヲ記載シ車主ヘ可相渡
 事
 但從來所持ノ分モ本文ニ照シ可取計事

第三條

一 從前準規檢道課車費ノ木札已ニ釘附ノ分ト雖モ第二條ノ手續ヲ
 以引換可申尤引上ケタル舊木札ハ不取締無之様區長役場ニ於テ

第三十三號布
達ヲ以テ區長
ヲ廢ス

第七百七十三
條ニ載スル十
二年六月四日
滋賀縣丙第九
十五號達ニ依
テ第五條消滅
ス

燒却可致事

第四條

一、區長役場ニ於テハ豫テ烙印木札ノ交附簿ヲ製シ置車主ヘ交附ノ際番號及ヒ車名ヲ明記シ之ニ車主ノ認印ヲ爲サシメ後鑑ニ備ヘキ事

但破解等ニテ木札返還ノ節モ必ス此帳簿ニ事由ヲ記シ可置事

第五條

一、烙印木札元拂計算書ハ別紙雛形ニ準シ一ケ年分ヲ取纏メ翌年一月中ニ可差出事

但破解等ニテ返還ノ木札ハ一ケ年分取纏メ返納可致事

諸車烙印木札元拂計算書

何年何月受取高
第何號
第何號
第何號
第何號

一定規車烙印木札

何拾何枚

第何號
第何號
第何號
第何號
何拾枚

車主ヘ交附ノ分

内
何枚
何枚
何枚

二人乗車
牛車

以下右ニ倣

差引殘

第何號
第何號
第何號
第何號
何枚

豫備ノ分

何年何月受取高
第何號
第何號
第何號
第何號

農商工

一、不定規車烙印木札
 何枚

内
 第何號
 第何號
 何枚
 車主へ交附ノ分

第何號
 第何號
 何枚
 大八七車
 何枚

差引殘
 第何號
 第何號
 何枚
 豫備ノ分

右ハ當區内明治何年一月ヨリ十二月迄諸車烙印木札元拂書面ノ通
 相違無之候也
 何郡第何區

十一年二月十日
 九日滋賀縣丙
 第二十九號達
 以下第九條ニ
 至ル追加同年
 六月二十五日
 同丙第百三十
 八號達ヲ以テ
 第十條ヲ増補
 ス其達ハ後ニ
 出

十年當縣丙第
 二百三十七號
 達ハ前ニ出

年號月日
 滋賀縣令 苗字 名 殿
 何 某

區長
 何

○明治十一年二月十九日滋賀縣丙第貳拾九號達區長戸
 昨明治十年當縣丙第貳百三十七號ヲ以諸車製作定規及ヒ縣稅賦課
 規則取扱心得書相達置候處今般左ノ通追加候條此旨相達候事

○
 第六條
 一凡ソ古車ヲ賣買スルトキハ其賣買主ヨリ區長役場へ届出サセ最
 初相渡シタル木札ハ引揚ケ交付簿賣主名前ノ側へ(明治何年何月
 何日)ト朱書シ買主へハ定規不定規ヲ區別シ第四條ノ手續ヲ以テ
 更ニ木札ヲ下渡スヘキ事

第七條

十二年五月十六日滋賀縣甲第三十二號布達ヲ以テ區制ヲ廢シ同日同甲第三十三號布達ヲ以テ區長ヲ廢ス

車稅規則ハ大政官ノ布告ニ係ル故ニ之ヲ登錄セス但民車成文律類纂初編第四百四十五條ニ出

十年本縣丙第二百三十七號達本年丙第二十九號達ハ前ニ出

一 他區へ跨ル賣買ハ賣主買主トモ各該區戶長へ届出サセ賣主ノ區ニ於テハ交付簿へ賣渡ヲ朱書シ買主ノ區長ニ於テハ第四條ノ手續ヲ以テ更ニ木札ヲ更付スヘキ事

第八條

一 他府縣下へ跨ル賣買ハ其賣主買主ノ内該區内ノモノヨリ届出サセ第七條ニ準シ取扱ヲ爲スヘキ事

第九條

一 賣買ニ付税金徴収ノ區分ハ車稅規則第三則ニ準據スヘキ事

○ 明治十一年六月二十五日滋賀縣丙第三百零八號達區長へ
昨十年丙本縣丙第二百三十七號達諸車製作定規及ヒ縣稅賦課規則取扱心得書中へ本年丙第二十九號ヲ以テ追加候處猶又左ノ一條増補候條此旨相達候事

第十條

一 木札ヲ遺失セシ時ハ直ニ所管警察署へ届出サスベキハ勿論區長役場ニ於テハ交付簿ニ記載ノ番號名前シテ渡セシメ事由ヲ朱書シ置キ豫備木札ノ内ヲ以テ渡シ方ノ手續ヲナスヘキ事

第七百七拾貳條

免稅車取扱方並ニ賣買手續

○ 明治十一年二月十九日滋賀縣丙第三拾號達區長へ

一 耕作一途ニ相川ニル免稅車ヲ賣買スル時ハ賣主買主トモ連署ノ書面へ該區々戶長ノ奥印ヲ受ケ引續キ耕作作用ニ爲スノ旨ヲ明記シ前ノ木札ヲ添へ願出ツヘシ
一 免稅車ヲ買受ケ有稅車ニ用ユルトキハ賣主ノ一方ヨリ前同様木札ヲ添へ届出ツヘシ買主ハ有稅車トスル故ニ別段當縣へ届出ツルニ及ハス該區々長役場へ申出定規不定規ノ木札ヲ請フヘシ
一 他府縣ノ免稅車ヲ買受ケ耕作作用ニ爲スモノハ其免稅木札ハ賣主

第七百七十三條ニ載スル十二年六月四日滋賀縣丙第九十五號達參照スヘシ○十二年五月十六日滋賀縣甲第三十二號布達ヲ以テ區制ヲ廢シ同日同甲第三十三號布達ヲ以テ區長ヲ廢ス○十一年四月十日滋賀

縣丙第八十八
號及同年
七月十六日同
丙第百五十八
號達ヲ以テ附
令アリ其達ハ
後ニ出

へ還付シ買主ノミ該區戸長ノ與印ヲ受ケ更ニ免税願出ツベシ
一 免税車ヲ買受ケ當縣へ届出テス共儘使用候儀ハ堅ク不相成儀ト
心得ヘシ

右區内免税車所持ノ者へ可相達事

○明治十一年四月十日滋賀縣丙第八拾八號達區長戸

耕作一途ニ用フル免税車取扱方左ノ通可心得此旨相達候事

- 一 耕作一途ニ用フル免税車ハ全ク農業用ニ供スルモノニ限レリ故
- ニ 傍ラ餘暇ヲ以テ山間ニ入リ薪柴ヲ積ミ又ハ米麥ヲ湖邊海口ニ
- 運輸スルガ如キハ假令自用タリトモ一切不相成儀ト心得ヘシ
- 一 耕作一途ニ用フル荷車免税烙印願出ルトキ新製ノ分ハ車輪齒厚
- サ同卷鎖幅厚サ胴木穴裏ニテ内法差渡シノ寸法等ヲ明記スヘシ
- 一 是マテ所持ノ有税古車ヲ免税車ニ用フルトキハ其旨ヲ詳記スヘ

本年當縣丙第
三十號達ハ前
ニ出

シ

一 有税古車ヲ他ヨリ買受ケ免税願出ルトキハ其賣主ノ住所姓名及
ヒ従前有税タル旨ヲ詳記スヘシ

但免税車ヲ他ヨリ買受引續キ免税願出ルモノ及ヒ免税車ヲ買
受有税車ニ轉スルモノハ本年當縣丙第三十號達ニ準據スヘシ

○明治十一年七月十六日滋賀縣丙第百五拾八號達區長戸

耕作一途ニ相用ユル免税荷車ハ検査ノ上捺印烙記候成規ノ處本廳
遠隔ノ僻村等ハ不便ノ故ヲ以テ從來木札ヲ製シ捺印烙記ヲ請來候
處往々寸法區々ノモノヲ差出不都合ノ儀ニ付自今左ノ離形通寸法
木種相定候條此旨相達候事

○

檢札

1174田本

三寸五分

第七百七拾三條

方

諸車國稅檢印及ヒ定規不定規烙印打渡事務取扱

○明治十二年六月四日滋賀縣丙第九拾五號達_{郡役所}戶

舊區戶長ニ於テ取扱候諸車國稅檢印及ヒ定規不定規烙印木札打渡

方ノ儀本年七月一日以降ハ渾テ該町村戶長役場ニ於テ取扱烙印木

札ハ戶長ヨリ郡役所へ受取方可申出此旨相達候事

但烙印木札渡方其他取扱順序ノ儀ハ渾テ舊縣稅同様可相心得事

第七百七拾四條 諸車新調破解賣買等ノ員數届出ノ事

○明治十二年七月十九日滋賀縣丙第百三拾四號達_{戶長}

諸車新調破解賣買等ノ員數每一ヶ月限リ明了ニ取調翌月二日迄ニ

從前取扱順序
ハ第七百七十
一條ニ出

郡役所へ可届出此旨相達候事

第七百七拾五條 免稅車員數等取調並ニ増減報告ノ事

○明治十二年七月十九日滋賀縣戊第七百四拾貳號達_{郡役}

(本文ハ第貳百
三拾五條ニ出)

○明治十三年一月九日滋賀縣丙第貳號達_{郡役}

(本文ハ第貳百
三拾五條ニ出)

第七百七拾六條 荷積車大中小車區別方

○明治十一年七月二十二日滋賀縣甲第四拾七號布達

車稅規則中荷積車ノ儀ハ荷臺_全ノ荷物ヲ積_載ノ縱橫相乘シ尺積十四

坪以上ヲ以テ大七車以上トシ右未滿ヲ以テ中小車_{大六}以下ト相心得更

ニ區別可致旨其筋ヨリ達有之候條此旨布達候事

但昨十年當縣甲第百五拾五號布達諸車製作定規及ヒ縣稅賦課規

則第四條縣稅賦課ノ儀モ本條ノ區別ヲ以テ徵稅候條此旨可相心

車稅規則ハ大
政官ノ布告ニ
係ル故ニ本編
之ヲ登錄セス
但民事成文部
類纂初編第四
百四十五條ニ
出○十年當縣
甲第百五十五
號布達ハ第七
百七十條ニ載
スル十三年五
月二十八日滋
賀縣甲第六十
號布達及ヒ第

百九十二條ニ
載スル十二年
六月二日同甲
第四十六號布
達ニ依テ消滅
ニ付略ス
八年第二十七
號布告車稅規
則ハ民事成文
律類纂初編第
四百四十五條
ニ出
甲第七十五
號布達ハ前ニ
出○十四年十
一月十五日滋
賀縣第七十二
號達ヲ以テ
附令アリ其達
ハ後ニ出

得事

第七百七拾七條

人力車一人乘二人乘區別方等ノ事

○明治十四年十月三十一日滋賀縣甲第七拾五號布達
明治八年第二十七號布告車稅規則中人力車ノ儀ハ橫巾内法曲尺貳
尺未滿ヲ以テ一人乗トナシ右尺以上ヲ以テ二人乗ト相定區別可致
旨其筋ヨリ達有之候條此旨布達候事

○明治十四年十月三十一日滋賀縣乙第九號達郡役所ハ

今般甲第七拾五號ヲ以テ人乗車壹貳人乘區別ノ儀布達候ニ付テ
ハ戶長ニ於テ詳細調査シ一人乗ノ二人乗ニ加ハル分ハ鑑札書換其
頁數等郡役所ヘ相届本期ノ税金追納可爲致就テハ郡役所ニ於テハ
別紙雛形ノ通取調十一月三十日マテニ可差出此旨相達候事

紙別 人力車區別増減上申

一人乘人力車

何百何拾輛

二人乘人力車

何拾何輛

内 何輛

追回ノ調査ニ依リ一人乗
ノ二人乗ニ加ハリシ數

右者人力車一人乘區別制限被定候ニ付取調候處書面ノ通候也

年月日

郡長 姓名 印

縣 令 宛

○明治十四年十一月十五日滋賀縣乙第九號達郡役所ハ

本年十月本縣乙第九號ヲ以テ人乗車一人乗ノ二人乗ニ加ハル分ハ
本期ノ税金追徴ノ儀相達置候處今般其筋ヨリ達有之候付右更正ニ
ヨリ税金ニ増減有之候共既納ノ分ニ限リ其儘据置來明治十五年一
月ヨリ更正ノ税金徴収可致此旨相達候事

第七百七拾八條

官用車及ヒ免稅車ヲ除クノ外ハ自用車ト雖モ課
稅ノ事

○明治十一年八月二十八日滋賀縣丙第八拾號達區長ハ

本年本縣乙第
十九號達ハ前
ニ出

十一年十一月
 十一日滋賀縣
 丙第百四十
 八號達ヲ以テ
 官用車ノ下へ
 制註ヲ挿入ス
 其後ハ後ニ出
 ○十二年五月
 十六日滋賀縣
 甲第三十二號
 布達ヲ以テ區
 制ヲ廢ス
 本年丙第百八
 十號達ハ前二
 出○十五年二
 月七日滋賀縣
 丙第八號達ヲ
 以テ官用車ハ
 都テ地方稅ヲ
 賦課セサルコ
 ニ定ム其達ハ
 第七百七十九
 條ニ出
 後ニ載スル十
 五年二月七日
 滋賀縣丙第八
 號達參看スヘ

車稅ノ儀ハ營業稅ニアラスシテ全ク該車ニ賦スルモノナレハ官用
 車及ヒ耕作ノ用免稅車ヲ除クノ外ハ假令自用ノ車タリモ總テ納稅ス
 ヘキ筈ノ處往々誤謬納稅不致向有之不都合ノ至ニ候條區内町村自
 用車所持ノ者へ懇篤諭示可致此旨相達候事
 ○明治十一年十一月十一日滋賀縣丙第貳百四拾八號達區長
 本年丙第百八拾號達中(官用車)ノ下へ左ノ通制註挿入候條此旨更ニ
 相達候事

○(御車及ヒ陸海軍省軍車車輛ノ外
 ハ國稅ノ外ニ陸海軍省軍車車輛ノ外
 陸海軍用車並耕作一途ニ使用スル船車陸軍乘馬本分ノ將校等軍事
 ノ爲メ飼置ク乘馬ハ地方稅賦課ニ及ハス候條爲心得此旨相達候事

第七百七拾九條 地方稅ヲ賦課セザル船車及ヒ乘馬ノ事
 ○明治十二年六月十一日滋賀縣丙第百七拾七號達郡役
 陸海軍用車並耕作一途ニ使用スル船車陸軍乘馬本分ノ將校等軍事
 ノ爲メ飼置ク乘馬ハ地方稅賦課ニ及ハス候條爲心得此旨相達候事

車稅規則ハ民
 事成文律類纂
 初編第四百四
 十五條ニ出

○明治十五年二月七日滋賀縣丙第八號達郡役
 官用車ハ都テ地方稅ヲ課サ、ル儀ト可相心得此旨相達候事
 但此達ニ矛盾スル指令等ハ取消ト心得ヘシ
 第七百八拾條 車へ修繕ヲ加ヘ爲メニ稅額ニ増減ヲ生シタル片課
 稅方
 ○明治十三年七月十六日滋賀縣甲第八拾九號布達
 船船等車へ修繕ヲ加ヘ爲メニ稅額ニ増減ヲ生シタルトキハ新調
 ト認メ更ニ該期ヨリ相當ノ稅金徵收候儀ト可相心得此旨布達候事
 第七百八拾壹條 有稅車ヲ免稅車ニ轉シタル片徵稅區分方
 ○明治十一年五月八日滋賀縣丙第百五號達區長
 有稅車ヲ免稅車ニ轉シタルトキ稅金徵收區分ノ儀ハ明治八年第二
 十七號公布車稅規則第三則ニ照シ七月以後ハ全年分六月以前ハ半
 年分納稅候儀ト可相心得此旨相達候事

第七百八拾貳條

他府縣車籍ノ車ニシテ本縣下ニ寄留使用スル者
徵稅方

○明治十一年十一月二十日滋賀縣丙第貳百五拾六號達區長戸
他府縣車籍ノ車ニシテ當縣下ニ寄留使用スル分ハ來明治十二年以
後悉ク其寄留地ノ車籍ニ編入定規ノ縣稅賦課スルハ勿論國稅トモ
當縣へ徵收候條此旨區内へ可相達候事

第七百八拾三條

輕運車課稅方

○明治十一年六月二十九日滋賀縣丙第百四拾壹號達區長戸
輕運車ニ係ル國稅ノ儀ハ大七車以上ノ稅額收稅可致ノ處往々大六
車以下ニ準シ收稅候向モ有之哉ニ相聞ヘ不都合ニ候條區戶長ニ於
テ誤謬無之様一層注意可致此旨相達候事

第七百八拾四條

京津間馬車開業許可ニ付取締ノ事

○明治六年二月八日滋賀縣第百五拾四號布達

十二年六月三日
滋賀縣中第
四十六號布達
ヲ以テ縣稅ヲ
廢シ地方稅ヲ
施行ス其布達
ハ第百九十二
條ニ出

今般京都府下上京第一區東若宮町田中寅吉馬車開業致シ三條通大
津濱迄通行營業致度願出候ニ付則八町通り京町筋馬場村迄並ニ中
堀町扇屋關迄通行開届候條右街道ノ義ハ陝隘ノ上別テ諸荷物多數
通行混雜ノ所柄ニ付怪我等無之様格別注意可致依テ左ノ通可相心
得事

○
一馬車通行ノ節ハ御者不絶懸聲イタシ晝ハ小旗ヲ目標ニ立夜ハ燈
火ヲ照シ諸人ノ耳目ニ達シ候條申付有之候條其旨相心得車ヲ避
ケ可申事

一牛馬人力車等馬車ニ行違候節ハ互ニ左ヘ寄り過失無之様可致事
一老人小兒等ハ別テ心ヲ付ケ可申儀ニ付兼テ前條之趣意篤ト申聞
置其家内亦ハ子守人等ヨリモ格別氣ヲ付ケ可申事
右管内へ無漏至急相達スル者也

第七百八拾五條

往還街衢ニ於テ十五年未滿ノ男女ニ牛馬ヲ牽カ
スマシキ事

○明治九年五月三十日滋賀縣乙第八拾五號告諭

往還街衢ニ於テ牛馬ヲ牽キ荷物ヲ運送スル儀ハ他ノ妨害ニ不相成
様注意可致ノ處十五年未滿ノ男女ヲシテ口綱ヲ取ラセ候者往々有
之趣相開候右ハ固ヨリ微弱ノ者ニシテ其制御スルノ力ナキハ勿論
萬一誤テ放解シ路傍ノ人民ニ損傷等被ムラセ候様ノ義有之候テハ
以ノ外ノ事ニ付自今右様ノ兒童輩ニ決シテ爲牽問敷事
右管内ニ無洩告諭スル者也

第七百八拾六條

牛馬牽綱制限ノ事

○明治五年壬申二月^日滋賀縣布達

(本支八第七百
三拾壹條ニ出)

○明治六年一月二十日滋賀縣第五拾號布達<sup>愛知六上坂田渡井
伊香島ノ六郡へ</sup>

(本支八第七百
三拾壹條ニ出)

○明治六年七月二十九日滋賀縣第七百拾三號布達

第七百八拾七條

人カヲ以テ使用スヘキ車へ度外ノ重荷ヲ積ミ牛
馬ヲ以テ輓カシムル儀差停ノ事

○明治十二年四月二十二日滋賀縣甲第貳拾四號布達

荷積車ノ内人カヲ以テ使用スヘキ車類へ度外ノ重荷ヲ積ミ牛馬ヲ
シテ之ヲ輓カシムル者有之哉ニ相聞へ候處右ハ大ニ道路ヲ毀損シ
不都合ノ至ニ付自今右様ノ儀不相成候條此旨布達候事

第七百八拾八條

車駕馬等ヲ強テ通行人へ勸ムマシキ事

○明治十一年四月十五日滋賀縣甲第貳拾七號布達

人力車又ハ駕籠馬等ヲ強テ通行人へ相勸メ不肯トキハ過言惡口ヲ
申掛ケ或ハ最初賃錢ノ約定ヲ等閑ニ致シ置途中ニ於テ彼是申立乘

客ヲシテ迷惑セシムル等ノ所業間々有之趣相聞不埒ノ事ニ付自今
右等ノ所業決シテ不相成候若心得違ノ者有之節ハ嚴重取糺シ相當
ノ處分ニ可及候條此旨布達候事

第七百八拾九條 免稅車ノ檢印札ヲ遺失シタルハ屆出方

○明治十一年六月二十五日滋賀縣丙第百三拾七號達區長戸

辨作用ノ荷車免稅檢印ノ木札ヲ遺失セシ時ハ直ニ所管警察署へ屆
出ヘクハ勿論遲クモ三日内ニ本廳へ木札相添へ其事由ヲ具狀シ檢
印可願出尤モ右願書へハ警察署へ屆出タル旨ヲモ記載可致檢所持
ノ者へ可相達此旨相達候事

第七百九拾條 車鑑札紛失ノ節屆出方

○明治十二年六月二十日滋賀縣甲第百六拾五號布達第七項但書

(本文ハ第百
拾條ニ出)

第七百九拾壹條 人民輻湊ノ街衢ニ於テ乘馬ノ者人民ノ妨碍ニナ

免稅車檢印ノ
事務現今郡長
ノ掌管ニ屬ス

ラザル様注意ノ事

○明治六年六月二日滋賀縣第五百三號布達犬上郡

從來人民輻湊之街衢ニ於テ乘馬通行之者ハ人民之妨碍ト不相成様
篤ク注意通行可致之處近來市井闊巷ニ於テ口副之者モ無之着鞭駈
馳之輩有之哉之趣右ハ人民營業ノ妨碍トナルノミナラス自然路上
之老者幼穉エ誤テ馬蹄ヲ觸レ候條之義有之候テハ以之外之事ニ付
自今乘馬通行之者市井街衢ハ別テ注意可致通行事
右管内犬上郡第一區ヨリ第十區マテ各町村エ無洩相達スル者也

○第貳拾四款 水車

第七百九拾貳條 水車營業規則

○明治十五年六月十六日滋賀縣甲第百拾號布達
水車營業規則別紙ノ通相定本年七月一日ヨリ施行候條此旨布達候
事

但從前布達達指令等別紙規則ニ抵觸スル者ハ惣テ消滅候儀ト可
心得事

別紙

水車營業規則

- 第一條 水車營業ヲナサントスルモノハ左ノ項目ヲ詳記シ水路及
近傍地景ヲ明瞭ニ縮寫シタル畫圖面相添地元ハ勿論水路ニ沿フ
上下町村戸長ノ與印ヲ以テ郡役所ヘ願出テ免許ヲ受クヘシ
- 一 水車設置ノ町村名字番號

十五年六月二
十日滋賀縣水
局付屬通知ヲ
以テ相達ヲ布
達ト訂正ス

營業稅雜種稅
賦課規則第八
百九十二條ニ
出

一 水路ノ字

一 車輪ノ寸法

一 碓碓又ハ粉挽白ノ數
他ノ機關ニ用ユルモノハ其所用ノ詳細

一 年中稼ニアラサルモノハ其稼月數及事由

第二條 水車設置ノ場所ヲ移轉シ又ハ碓白ノ數ヲ増減シ(他ノ機關
ノ變更増減)稼月數ヲ伸縮セントスルモノハ第一條ノ手續ヲ以

テ郡役所ヘ願出免許ヲ受クヘシ

但場所移轉ノ外ハ畫圖面ヲ添ルニ及ハス

第三條 水車ヲ賣買讓與シタルトハ賣買又ハ讓渡人讓受人連署シ

地元戸長ノ與印ヲ以テ郡役所ヘ届出ツヘシ

第四條 水車營業免許ヲ得テ起業スルモノト雖モ他ノ妨害ヲ生ス

ルトハ取拂ヲ命スルコトアルヘシ

第五條 水車ニ賦課スル地方稅ハ營業稅雜種稅賦課規則ノ通りタ

確白原本ノマ
ハ確白ノ誤ナ
ラン

本年甲第百十
號布達ハ前二
出

ルヘシ
第六條 第一條第二條ノ手續ヲ爲サスシテ水車ヲ新設シ又ハ移轉
シ確白其他ヲ増減變更シタルモノハ違警罪トシ二日以上五日以
下ノ拘留ニ處シ又ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處スヘ
シ

○明治十五年六月二十日滋賀縣本局付屬通知
本年甲第百拾號中相達候ハ布達ノ誤植ニ付正誤候也

○第貳拾五款 旅籠屋

第七百九拾三條 旅籠屋營業取締規則

○明治十二年九月二十五日滋賀縣甲第百貳拾八號布達
明治八年甲第百拾七號ヲ以テ宿屋取締規則及布達候處右ハ相廢
シ更ニ旅籠屋營業取締規則別冊ノ通相定候條此旨布達候事
但目今營業ノモノハ來ル十一月三十日迄ニ組合相立役員撰舉致
シ所管警察署へ届出ツヘキ事

別冊

旅籠屋營業取締規則(此規則ハ十六年二月三日滋賀縣甲第拾
八號布達ヲ以テ全部改正ニ付略ス但第拾

第拾八號布達ハ十五年七月以後
ノ發令ニ付第貳編ニ編入スヘシ)

○明治十五年六月十日滋賀縣甲第百六號布達

明治十二年九本縣甲第百二十八號布達旅籠屋營業取締規則第八條
第十七條左ノ通改正候條此旨布達候事(左ノ改正第八條第十七條ハ
十六年二月三日滋賀縣甲第

八年甲第百
十七號布達ハ
廢止ニ付略ス

十二年本縣甲
第百二十八號
布達ハ前二出

拾八號布達ヲ以テ規則全部改正ニ付略ス但甲第十八號
布達ハ十五年七月以後ノ發令ニ付第貳編ニ編入スヘシ
第七百九拾四條 縣廳へ出願ノ者止宿所ノ定規ヲ解キ差出紙ニ止
宿所記入方ヲ定ムルノ事

○明治八年一月四日滋賀縣第三號布達

一管下人民之縣廳ニ用向有之出願候節遠隔町村之者ニテ縣廳下ニ
於テ一泊以上之者ハ必ス公宿會社ニ止宿可致旨相達置候處詮議
之次第有之ニ付自今各自之勝手ニ任セ何レニ止宿致シ候共不苦
候事

一前條何レニ止宿候共勝手次第ニ候得共其止宿所縣廳ニ於テ承知
不致テハ臨時呼出シ等ノ節差支ヘ有之ニ付自今願伺屆書差出シ
候者ハ其書面又ハ呼出シヲ受ケ出願スル者ハ其差出紙ニ左之離
形書式之如ク必ス其止宿所ヲ相記シ可差出事

願伺屆書ニ止宿所ヲ認ムル式

公宿會社ニ止宿致スヘキ旨ノ達ハ消滅ニ付奉ス○八年一月十五日滋賀縣第四十四號布達ヲ以テ公宿會社ノ儀ニ付説明アリ參看スヘシ其布達ハ後ニ出

本年當縣第三號布達ハ前ニ出

云云書

郡區町村

何番屋敷

何町何某方止宿

何某

差出紙ニ止宿所ヲ認ムル式

云云

郡區何町

何番屋敷

何町何某方止宿

何某

右管内ニ無洩布達スル者也

○明治八年一月十五日滋賀縣第四拾四號布達

本年當縣第三號ヲ以テ管下人民公宿會社ニテ止宿之儀及布達候處
間ニハ右會社ハ廢社ト誤解致シ候者モ有之趣相聞不都合之儀ニ候

固ヨリ右會社ハ廢社ニハ無之依舊結社差許營業罷在候儀ニ付各人
民適宜ニ可致止宿事

右管内ニ無洩布達スル者也

第七百九拾五條 旅舍營業ノ者糊封シタル旅人案内狀ヲ旅人ニ托

スベカフザル事

○明治十四年二月十九日滋賀縣諭達

近來旅舍營業ノ者共旅人案内狀ト唱ヘ糊封ノ書狀ヲ往來ノ旅人ニ
托シ互ニ相送ル者有之趣右ハ假令案内狀ト雖モ糊封スル時ハ其在
中何物タルヲ知ルニ山ナク且案内狀ニ擬シ私カニ同業者中ノ信書
ヲ往復スル様ノ儀有之候テハ郵便規則ノ犯則ニ陥リ彼此ノ迷惑ト
モ相成候ノヨナラス甚不相濟儀ニ付向後右案内狀ノ儀ハ必ス無封
ノモノニ限り糊封ノ書狀ハ一切往復セサル様可致此旨旅舍營業ノ
者へ諭達候事

郵便規則ハ大
政官ノ布告ニ
係ル故ニ本編
之ヲ登錄セズ
但民事成文律
類纂第二編第
三編第四編共
ニ出

○第貳拾六款 貸座敷及藝娼妓

第七百九拾六條 貸座敷及ヒ藝娼妓舞子營業規則

○明治十四年五月二十八日滋賀縣甲第七拾八號布達

十一年本縣甲
第三十號布達
ハ改定ニ付略
ス

明治十一年^四本縣甲第三拾號ヲ以テ及布達候貸座敷及ヒ藝娼妓舞
子營業規則別冊ノ通改定候條此旨布達候事

但貸座敷營業人ノ養女ト雖モ從前藝娼妓舞子營業免許濟ノ者ニ
限リ其儘營業差許候事

別冊

貸座敷營業規則

第一條 凡ソ貸座敷ヲ營業セントスル者ハ其營業セントスル貸座
敷免許地ノ取締人及ヒ戸長ノ奥印ヲ受ケタル書面ヲ以テ所管郡
役所へ願出免許鑑札ヲ受クヘシ

第二條 免許鑑札ヲ毀損紛失シ又ハ代替リ轉居改名等ノ節ハ前條

十四年六月二
十日滋賀縣本
局付屬通知ヲ
以テ第一條中
(凡ソ貸座敷)
ヲ(凡ソ貸座
敷)ト訂正ス
○十四年八月
十六日滋賀縣

甲第百二十七
號布達ヲ以テ
第一條へ租
ヲ追加ス其布
達ハ後ニ出

同様ノ手續ヲ爲シ所管郡役所へ願出書換又ハ再渡ヲ請フヘシ廢
業ノ節ハ其旨届出鑑札返納スヘシ

第三條 前條々願届相濟トハ其都度尙ホ所管警察署又ハ分署へ届
出ヘシ

第四條 貸座敷ハ左ノ場所ノ外營業スルコトヲ許サス

第一號 滋賀郡大津上馬場町
同 下馬場町

第二號 同郡神出村ノ内字真町

第三號 同郡大津 四宮町

第四號 同 甚七町

以上々等免許地トス

蒲生郡八幡池田町元

第五號 同 池田町二丁目

第六號

同 玉屋町元

神崎郡八日市村ノ内字新地

同 郡濱野村ノ内字寺ノ前

第七號

犬上郡彦根袋町

第八號

坂田郡長濱南片町

以上下等免許地トス

第五條 貸座敷免許ヲ得タル者ハ毎月賦金一戸ニ付上等免許地ハ

三圓五拾錢下等免許地ハ二圓五拾錢ヲ納ムヘシ

但起廢業ニ係ル月ハ現實營業日數一ヶ月ニ滿スト雖モ金額ヲ

納ムル勿論ナルヘシ

第六條 現住ノ免許地ヲ移轉スル者ハ上等免許地ヨリ下等免許地

へ移リ下等免許地ヨリ上等免許地へ移ルニ拘ハラヌ其月ノ賦金

ハ總テ上等免許地ノ賦金ヲ納ムヘシ

第七條 賦金ハ其月三十日限り取締人へ差出スヘシ取締人ハ之ヲ
取廻メ翌月五日限り所管郡役所へ納ムヘシ屢督促ヲ受ケ納メサ
ルモノハ其營業ヲ禁止スヘシ

第八條 貸座敷免許地各號毎ニ組合ヲ立付座敷營業人ノ内ニテ正
副二名取締人ヲ公撰シ貸座敷及ヒ藝娼妓舞子等ノ取締及ヒ諸般
ノ業務ヲ取扱ハシムヘシ

但取締人ト雖モ自己營業上ニ於テハ一般營業人ト異ナルコトナ
シ

第九條 正副取締人タルヲ得ヘキ者ハ該免許地ニ本籍住居ヲ定メ
滿一年以上貸座敷營業スル滿二十年以上ノ男子ニ限ルヘシ

第十條 正副取締人ノ任期給料及ヒ撰舉方法等ハ組合貸座敷營業
人ノ協議ニ任ス

第十一條 取締人改撰又ハ改名等ノ節ハ所管郡役所及ヒ警察署又

ハ分署へ届出ヘシ

第十二條 取締人ハ貸座敷藝娼妓舞子等ノ名簿ヲ製シ本籍及ヒ免
許ノ年月其他必用ノ條件ヲ登記シ置キ異動アル毎ニ遺漏ナク訂
正スヘシ

第十三條 營業規則ハ勿論時々違フ旨趣堅ク相守リ藝娼妓舞子等
ニハ營業規則及ヒ癩毒検査ノ旨趣等懇篤説諭シ犯則者ナキ様常
ニ注意スヘシ

第十四條 藝娼妓舞子等ヲ寄留營業セシムルニハ篤ト其身元ヲ取
亂シ親戚又ハ慥ナル者二名以上保証セシメ該定約書ニハ取締人
ノ奥印ヲ受クヘシ改約スルキハ亦全様奥印ヲ受クヘシ

第十五條 娼妓ハ常ニ身体ヲ清潔ナラシメ病アラハ醫師ノ診断ヲ
受ケシメ癩毒ノ徴候アルキハ速ニ檢療醫員ノ治療ヲ受ケシムヘ
シ

第十六條 來客ノ住所氏名及ヒ遣拂金額等遺漏ナク帳簿ニ記載シ
置キ毎朝取締人ヲ經由シ所管警察署又ハ分署ヘ届出ヘシ

第十七條 犯罪人々相書ヲ以テ違置ク者ハ勿論總テ不審ノ者ト見
認ムル客アルルハ取逃サ、ル様注意シ速ニ所管警察署又ハ分署
ヘ密告スヘシ

第十八條 免許ヲ得スシテ營業シ又ハ免許地外ニ於テ營業スルコ
ヲ禁ス

第十九條 免許鑑札ハ賣買貸借スルコヲ禁ス

第二十條 免許鑑札所持セサル婦女ニ藝娼妓舞子等ノ所業ヲ爲サ
シムルコヲ禁ス

第二十一條 藝娼妓舞子ノ稼料ヲ抵當トシテ金錢ヲ貸與ヘ或ハ父
兄等ノ承諾ナキ婦女ヲ勸誘シ強テ藝娼妓舞子等ヲ爲サシムルコ
ヲ禁ス

第二十二條 藝娼妓舞子等ニ店ヲ張ラセ通行人ヘ遊興ヲ勸ムルコ
ヲ禁ス

第二十三條 來客ノ届ヲ怠リ及第十八條以下ノ規則ヲ犯ス者ハ營
業ヲ禁止シ又ハ禁止セス三十圓以下ノ罰金ニ處ス若シ無力ニシ
テ納ムルコト能ハサル者ハ六ヶ月以内懲治監ニ入レ懲戒ス其情狀
重キ者ハ罰金懲戒ヲ併科スルコトアルヘシ

第二十四條 貸座敷主及ヒ其家屬傭人ニシテ藝娼妓舞子等ヲ教唆
シテ規則ヲ犯サシメ又ハ藝娼妓舞子等ノ規則ヲ犯スコトヲ知テ制
止セム却テ之ヲ幫助シ犯則ヲ容易ナラシメタル者ハ前同様ノ罰
科ニ處ス

○ 娼妓營業規則

第一條 凡ソ娼妓ヲ營業セントスル者ハ親戚許懺ナキ者ハ身二名

十五年六月二
十一日滋賀縣
甲第百十一號
布達ヲ以テ第
二十三條中罰
金ヲ罰料ト改
メ懲治監ニ入
レ懲戒スヲ皆
使ニ處スト改
正ス其布達ハ
後ニ出

以上及ヒ貸座敷主保証連署シ其營業セントスル貸座敷免許地ノ
取締人及ヒ戸長ノ奥印ヲ受ケタル書面ニ檢査醫員ノ無毒証書ヲ
添ヘ所管郡役所ヘ願出免許鑑札ヲ受クヘシ

第二條 左ノケ條ニ觸ルヘ者ハ娼妓營業ヲ許サス

第一 人ノ妻妾タル者

第二 華士族ノ婦女

第三 貸座敷營業人ノ養女

第四 癩毒其他惡疾アル者

第五 年齢十五年未滿ノ者

第六 免許貸座敷ニ住所ヲ定メサル者

第七 保証人ナキ者

第三條 娼妓ノ免許ヲ得タル者藝妓ヲ兼業セントスルキハ藝妓營
業規則ニ照準シ所管郡役所ヘ願出兼業免許鑑札ト引換ヲ請フヘ

シ

第四條 免許鑑札ヲ毀損紛失シ又ハ轉居改名等ノ節ハ貸座敷取締
人及ヒ戸長ノ奥印ヲ受タル書面ヲ以テ所管郡役所ヘ願出書換又
ハ再度ヲ請フヘシ廢業ノ節ハ其旨届出鑑札返納スヘシ

第五條 前條々ノ願届相済キハ其都度尙小所管警察署又ハ分署ヘ
届出ヘシ

第六條 娼妓免許ヲ得タル者ハ其營業スル貸座敷免許地ノ等級ニ
應シ毎月賦金上等免許地ハ貳圓下等免許地ハ壹圓五拾錢ヲ納ム
ヘシ藝妓兼業ノ者ハ其半額ヲ減ス

但起廢業ニ係ル月ハ現實營業ノ日數一ヶ月ニ滿スト雖モ全額
ヲ納ムル勿論タルヘシ藝妓兼業ノ者ハ願濟ノ月ヨリ賦金半額
ヲ減スヘシ

第七條 現任免許地ヲ移轉スル者ハ上等免許地ヨリ下等免許地ヘ

移リ下等免許地ヨリ上等免許地へ移ルニ拘ラス其月ノ賦金ハ總テ上等免許地ノ賦金ヲ納ムヘシ

第八條 賦金ハ其月三十日限り貸座敷取締人へ差出シ取締人ハ之ヲ取纏メ翌月五日限り所管郡役所へ納ムヘシ展督促ヲ受ケ納ムサル者ハ營業ヲ禁止スヘシ

第九條 營業規則ハ勿論時々違ノ旨趣堅ク相守リ若シ了解シ難キ條件アラハ貸座敷主又ハ貸座敷取締人へ篤ト尋子合スヘシ

第十條 客ノ招キニ應スル節ハ必ス免許鑑札ヲ所持シ若シ見ントヲ要スル者アラハ其點檢ニ供スヘシ

第十一條 常ニ身体ヲ清潔ニシ何症ニ拘ラス病アル節ハ貸座敷主ニ告ケ醫師ノ診察ヲ受ケ若シ癩毒ノ徴候アルキハ速ニ檢癩醫員ノ治療ヲ受クヘシ

第十二條 廢業又ハ他へ轉住セントスルニ貸座敷主等故ナク故障

スルキハ速ニ所管警察署へ願出説諭ヲ請フヘシ

第十三條 何事ニ依ラス客ノ所業怪敷見認ルコアルキハ速ニ貸座敷主ニ密告スヘシ

第十四條 免許ヲ得スシテ營業シ又ハ免許貸座敷ノ外ニ住居スルコトヲ禁ス

第十五條 免許鑑札ハ賣買貸借スルコトヲ禁ス

第十六條 客ノ招キニ應シ免許貸座敷外ニ出ルコトヲ禁ス

第十七條 癩毒其他疾病アルキ客ノ招キニ應スルコトヲ禁ス

第十八條 第十四條以下ノ規則ヲ犯ス者ハ營業ヲ禁止シ又ハ禁止セスニ拾圓ヨリ多カヲナル罰金ニ處ス若シ無力ニシテ納ムルコト能ハサル者ハ四ヶ月以内懲治監ニ入レ懲戒ス其情狀重キ者ハ罰金懲戒ヲ併科スルコトアルヘシ

十五年四月一日
日滋賀縣中第
六十九號布達
ヲ以テ第十八
條ヲ改正ス其
布達ハ後ニ出

藝妓舞子營業規則(十四年八月二十六日滋賀縣甲第百三拾四號)月二十六日同甲第百拾四號布達ヲ以テ第一項ヲ刪除シ同年十二月二十六日同甲第百拾四號布達ヲ以テ改正ノ規則ハ後ニ出ス

○明治十四年六月二十日滋賀縣本局付屬通知

本縣甲第七十八號布達ハ前二出

本縣甲第七十八號布達貸座敷營業規則第一條ニ凡ソ貸座敷ヲトテルハ貸座敷ノ誤植ニ付正誤候也

○明治十四年八月十六日滋賀縣甲第百貳拾七號布達

本年本縣甲第七十八號布達ハ前二出

本年本縣甲第七拾八號布達貸座敷營業規則第一條へ左ノ通但書追加候條此旨布達候事

第一條 云々

但華士族ニハ貸座敷營業ヲ許サス

○明治十五年四月一日滋賀縣甲第百拾九號布達

十四年本縣甲第七十八號布達ハ前二出

明治十四年本縣甲第七十八號布達娼妓營業規則第拾八條左ノ通

本ノマ、恐クハ十四年五月ノ誤ナラン○十五年六月二十一日滋賀縣甲第百十一號布達ヲ以テ罰金ヲ尚科ト改メ懲治監ニ入レ懲戒スヲ若使ニ處スト改正ス其布達ハ後ニ出○檢權條例ハ第五百九條ニ出

改正候條此旨布達候事

第十八條 本則第十四條以下及ヒ檢藏條例第六條第十三條ニ違背シ又ハ故ナク檢藏及ヒ入院治療ヲ拒ミタル者ハ營業ヲ禁止シ又ハ禁止セス貳拾圓ヨリ多カラサル罰金ニ處ス若シ無力ニシテ納ムルコト能ハサル者ハ四ヶ月以内懲治監ニ入レ懲戒ス其情狀重キ者ハ罰金懲戒ヲ併科スルコトアルヘシ

○明治十五年六月二十一日滋賀縣甲第百拾壹號布達

明治十四年本縣甲第七十八號布達貸座敷營業規則第二十三條及ヒ娼妓營業規則第十八條中罰金トアルヲ過料ニ懲治監ニ入レ懲戒

ストアルヲ若使ニ處スト改正候條此旨布達候事(十四年本縣甲第七十八號布達ハ前二出)○滋賀縣本局付屬通知

○明治十四年十二月二十六日滋賀縣甲第百拾四號布達

本年五月當縣甲第七拾八號布達藝妓舞子營業規則別紙ノ通改正候條
此旨布達候事

別紙

藝妓舞子營業規則

- 第一條 凡ソ藝妓舞子ヲ營業セントスル者ハ其營業セントスル貸座敷免許地ノ取締人及ヒ戸長ノ奥印ヲ受ケタル書面ヲ以テ所管郡役所ヘ願出免許鑑札ヲ受クヘシ
- 但貸座敷ニ寄留ノ者ハ本文願書ニ貸座敷主ノ連署ヲ要スヘシ
- 第二條 左ノケ條ニ觸ル、モノハ藝妓舞子ノ營業ヲ許サス
 - 一 貸座敷營業人ノ養女
 - 二 貸座敷免許地ニ住所ヲ定メケル者
- 第三條 舞子營業ハ年齡十三年未滿ノ者ニ限ル滿十三年ニ及ヘハ其月十日迄ニ第一條全條ノ手續ヲ爲シ所管郡役所ヘ願出藝妓免

許鑑札ト替換ヲ請フヘシ

- 第四條 藝妓免許ヲ得タル者娼妓ヲ兼業セントスルハ娼妓營業規則ニ照準シ所管郡役所ヘ願出兼業免許鑑札ト引換ヲ請フヘシ
- 第五條 免許鑑札ヲ毀損紛失シ又ハ轉居改名等ノ節ハ第一條全條ノ手續ヲ爲シ所管郡役所ヘ願出替換又ハ再渡ヲ請フヘシ廢業ノ節ハ其旨届出鑑札返納スヘシ
- 第六條 前條々ノ願届相濟トハ其都度尙ホ所管警察署又ハ分署ヘ届出ヘシ
- 第七條 營業規則ハ勿論時々違ノ旨趣堅ク相守リ若シ了解シ難キ條件アラハ貸座敷主又ハ貸座敷取締人ヘ篤ト尋子合スヘシ
- 第八條 客ノ招キニ應スル節ハ必ス免許鑑札ヲ所持シ若シ見ントヲ要スル者アラハ其點檢ニ供スヘシ
- 第九條 廢業又ハ他ヘ轉住セントスルニ貸座敷主等故ナク故障ス

ルハ速ニ所管警察署へ願出説諭ヲ請フヘシ

第十條 何事ニ依ラス客ノ所業怪敷見認ルコアルハ速ニ貸座敷主ニ密告スヘシ

第十一條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ一圓以上一圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

一 免許ヲ得スシテ營業シ又ハ貸座敷免許地外ニ住居シタル者

二 免許鑑札ヲ賣買又ハ貸借シタル者

三 舞子ニシテ滿十三年以上ニ及ヒ藝妓ノ鑑札ヲ受ケス其儘營業シタル者

第十二條 前條ノ諸件ヲ犯シタル者ハ刑法處分ノ上尙ホ其事情ニ依リ行政ノ處分ヲ以テ營業ヲ禁止スルコアルヘシ

○明治十五年三月二十七日滋賀縣甲第六拾五號布達

十五年三月二十七日滋賀縣甲第六十五號布達ヲ以テ第十二條ヲ削除ス其布達ハ後ニ出

十四年本縣甲第二百十四號布達ハ前ニ出
○同年本縣甲第二百十八號布達ハ第八百一號ニ出

明治十四年三月二十日本縣甲第二百拾四號布達藝妓舞子營業規則第拾二條及ヒ同年同本縣甲第二百拾八號布達諸遊技場取締規則第拾壹條削除候條此旨布達候事

第七百九拾七條 娼妓藝妓兼業ノ者檢査入院中ト雖モ税金賦金免除セザル事

○明治十二年六月三十日滋賀縣丙第百拾九號達滋賀郡馬場町眞町郡池田町元同二丁目玉屋町元神崎町八日市村犬上郡袋町坂田町南片町敷賀郡常盤町浪井町月見町境町武藏郡飛鳥町香取町戸長町南娼妓並藝妓兼業ノ者檢査入院中ハ是マテ税金賦金致免除來候處自今檢査中税金賦金不致免除候條此旨該營業人へ可相達候事

第七百九拾八條 藝妓渡世ノ者外國人へ賣淫差傳ノ事

○明治七年三月八日滋賀縣第百八拾壹號布達
遊女藝妓渡世ノ者外國人へ賣淫致シ候儀決シテ不相成候條其旨屹度可相心得事

右管内滋賀郡第三區甚七町第六區四宮町第十區與町浦生郡第五區池田町元同二丁目元玉屋町神崎郡第六區八日市村犬上郡第九區袋町阪田郡第十七區長濱南片町へ無洩至急布達スル者也

○第貳拾七款 密賣淫

第七百九拾九條

賣淫懲罰例頒布ニ付不行狀ノ聞ヘ之レアル婦女へハ時々説諭ヲ加フベク等ノ事

○明治九年二月五日滋賀縣甲第六拾號布達區長、戸長

今般賣淫懲罰例甲第五十九號ヲ以テ及布達候ニ付テハ各區々長並各町村戸長ニ於テ犯則ノ者無之檢精々注意シ不行狀ノ聞ヘ有之婦女ハ當人及ヒ父母等へ時々説諭ヲ加ヘ若シ相用ヒス罰則ニ觸レ候者有之候ハ、速ニ本廳及ヒ最寄警察出張所ニ可届出候事

但賣淫ノ所業發セスト雖モ右疑ヒ有之婦女ハ盡ク本廳及ヒ警察各出張所ニテ住所姓名年齢等簿冊ニ記載シ其行狀視察可致答ニ付無遺漏可届出候事

右管内各區々長各町村戸長ニ無洩布達スル者也

第八百條 賣淫懲罰例

甲第五十九號
布達賣淫懲罰
例八十二年四
月二十四日滋
賀縣甲第二十
七號布達ヲ以
テ全部更正ス
其布達ハ第八
百九十八條ニ
出○十二年五
月十六日滋賀
縣甲第三十二
號布達ヲ以テ
區制ヲ廢シ同
日甲第三十三
號布達ヲ以テ
區長ヲ廢ス○
警月出張所現
今警察署同分
署ト冊ス

○明治十二年四月二十四日滋賀縣甲第貳拾七號布達

〔本文ハ第八百九拾八條ニ出〕

○第貳拾八款 遊技場

第八百壹條 諸遊技場取締規則

○明治十四年十二月二十七日滋賀縣甲第貳百拾八號布達

明治十二年^九本縣甲第百二拾六號布達諸遊技場取締規則別紙ノ通

改正候條此旨布達候事

但此規則ニ抵觸スル從前ノ布達ハ總テ消滅ノ儀ト心得ヘシ

別紙

諸遊技場取締規則

第一條 諸遊技場^{大弓 楊弓 玉 射的 吹矢 ノ類}ヲ開業セントスル者ハ四隣地主ニ

於テ故障ナキ保證書ヲ添付シ戶長ノ與印ヲ受ケ所管警察署ヘ願

出ヘシ

但場所移轉ノ節ハ本文同様ノ手續ヲ以テ願出代替改姓名又ハ

廢業ノキハ其都度届出ヘシ

十二年本縣甲
第百二十六號
布達ハ改正ニ
付對ス